明治三十四年二月二十五日發行（明治二十年十一月本會創立）

第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日）　毎月一回廿日發行　内務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百參拾五號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百三十五號　目次

總會報告

本會總集會來三月九日（第二土曜日）午後一時より麴町區虎の門内東京女學館内に於て相開き役員の改撰諸報告及び左記兩氏の講演有之候山根氏には先頃渡歐せられしが此程歸朝せられ候に付歐洲衛生上の視察に就て演説せらるべく候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

講師

一演題未定　醫學博士　高橋順太郎君

一仝　警視廳第三部長 醫學博士　山根正次君

明治三十四年二月

私立大日本婦人衛生會

生徒募集廣告

來四月本館第三學年以下の生徒を募集す入學希望の方は同月十日迄に必ず申込あるべし

入學希望者非常に多く到底全員の入學を許すこと能はざるは例年の經驗によりて明かなり故に本年入學希望の方は成るべく女子教育奬勵會員の紹介を得て申込まるべし左すれば會員の家族と同じく無試驗にて相當級に編入すべし

規則書入用の方は貳錢の郵便切手を封入して申込まるべし左すれば本館の規則は勿論女子教育奬勵會の趣旨書、規定及び會員の姓名等詳細に記載せる一覽書を進呈すべし

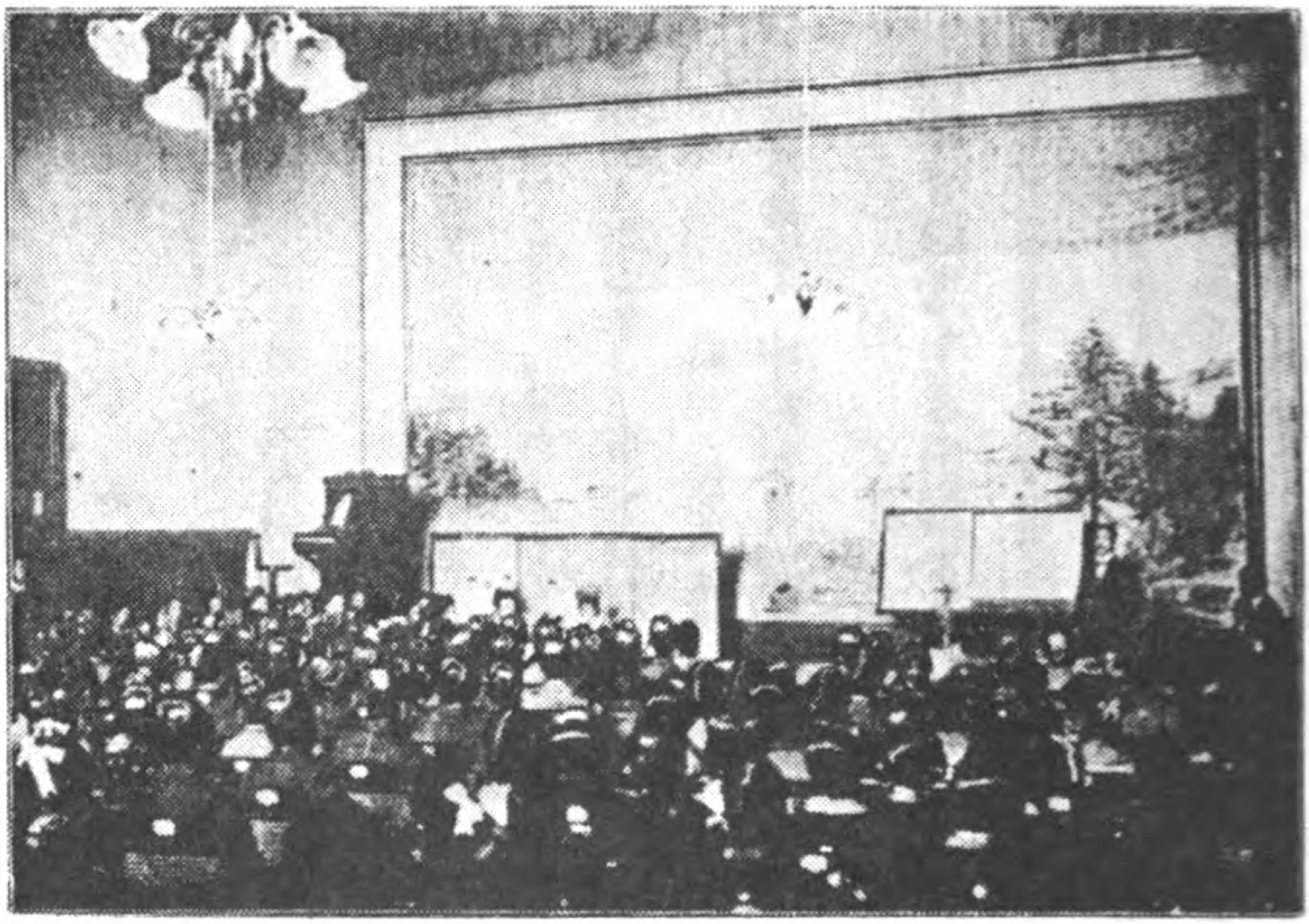
本館は位置高燥にして空氣の流通甚だ宜しく校舍の建築壯麗堅固なるのみならず廣濶なる芝生の運動場を有するが故に生徒の衛生上最も好適なりとす加之大日本婦人衛生會は屢々本館講堂に於て開かるゝが故に本館の生徒たるものは其の會場に列し親しく有名なる博士達の講演を聽き婦人衛生上の知識を得ることの多きは他に其の比を見ざる所なり

明治三十四年二月

東京麴町區虎の門內

東京女學館

私立大日本婦人衛生會新年會於東京女學館講堂



令旨（本會例會に於ける總裁殿下よりの令旨）

本日數[illegible]の方々を[illegible]見ることを得たるは[illegible]の[illegible]喜ばしき所なり殊に婦人衛生の事たる人間最も大切なるものにして[illegible]子弟を養育する上に於ても皆々の心得べき事と[illegible]して居らねばさることなり

本會は役員并に會員諸氏の熱心なる盡力により次第に隆盛に赴けるは深く満足する所なり其序に一言諸氏に望むところは凡そ婦人は衣服に意を用ゐること多きが爲め集會などの席にありては自然衣服競爭の弊に陥ることなしとせず斯くては本會の旨趣にも違ふべければ會員は爾後ますます質素と清潔とを旨とし流行に走るの風を避け成るべく一回も多く出席して有益なる講義を聽き以て自他を益し本會の目的を達せられんこと希望に堪へざる處なり

明治三十二年十一月

講演

○病歷を陳述するに就ての注意

醫學博士　中濱東一郎君講演　（於本會）
佃　速記所員速記

私は今日の演題を提出致しまする時機を失ひまして、遂に茲に掲げることが出來ませんでございました、デ私が只今述べやうと考へるのは、病歷を陳述するに就ての注意であります、是は自分の病氣か、或は又他の人に代つて病氣をは醫師又は其他の人に告げることの場合に於ての注意であります、此ことに就ては私は或機會があつたら述べたいと思つて居りましたが、今日までマダ一向其機會を得ませんだつたが幸に今日初めて此ことに就て述べることが出來るのであります、

先づ簡單に申上げると自分の病氣のある所を人に告げると云ふのでありますから、別段六ケ敷いことはありませぬ、少しも他に注意を要することはないやうでありますけれども、併ながら實際に臨みましては餘程注意を要することであります、自分の病氣を人に告げると云ふのであるから容易であるやうでありますが、實際に至りましては決してさうでありませぬ、日々私共が病人に接しましたり、又は人の書いた物を讀むで見まするに、病氣のあるところを能く詳かに言現はす人は寔に少ない、又何うしても十分明瞭に病のある所を訴ふることの出來ぬ人があります、立派なる教育あり智識ある人ですら、少しく注意を缺くために自分の病を十分に話すことが出來ない者がいくらもあります、是は病を癒すと云ふ上

に最も大切なことであり、又醫師が病を診斷致しまするに就ても大切なことであります、能く事を述べる人、即ち多辯な人は宜いかと云ふに決してさうでない、多辯な人は多く無用のことを陳述するの弊あつて却て不頁であります、それなら多辯でない人、即ち訥辯な人はいかゞといふに順序を亂ださず必要缺くべからざることを明了に述ぶるに於ては却て多辯者に優る處が多くあります、是は唯其人の注意不注意にあるのでありまして、平常の注意が深かければ能く自分の思ふ事を明瞭に申すことが出來ます、此事は獨り男子ばかりでなく、女子などに對しても必要なことでありますから、今日此席に於て述べやうと考へました處であります、

先づ最も大切なのは、自分の病氣なり他の人の病氣をその人に代つて述べるにあたり最も注意すべきは勉めて無益なことを省き最も必要なことを陳述することに注意しなければならぬのであります、斯樣に申しますと、例へば必要なことは述べて必要でないことは述べないのであると云ふと、別に彼是注意をするに及はぬ、必要のことを述べるのは勿論であると思はれるでありませうが、併し何れが必要であるか、如何なる點が大切であるか、此判斷をすることは甚だ六ケ敷頗る困難であります、醫師の方で必要と思つたことも患者の方では左のみ大切とも思はず、患者の方で必要と思つたことは、案外醫師の方では何にもならぬことか少なかりません、普通の患者多くはくだらぬことを長い間話しまして、それがために無用の時間を費すことが往々あります、啻に時間を徒費するばかりでなく、醫者の診斷上必要なことまでも言ひ漏らして、トウ／＼それで十分に醫師が病を診斷することが出來ず又は病の鑑定を誤ることが往々あります、極く閑な醫者で、一日に一人

や二人の患者を診察するには如何やうなことを言ふても宜いけれども、一時間に二十人三十人乃至は五六十人以上も診る醫師であるならば、病人の告げ方が悪いために誤診をすると云ふこともある、それは醫者の粗漏ではありませう、けれども大多數は患者が自分の申すべきことを申さず、無用の話をするために醫師の誤診を來たすとになるのであります、故に私は何う云ふ點が必要であるか、如何なる點が無用であるかと云ふことを御話致したいと思ふ、デ最初申した通り必要なことは述べて無用なことは成べく述べぬと云ふことに就て、注意すべきことは色々ありますが、

第一に注意すべきは病氣に關係したことの外は述べぬと云ふことであります、病氣に關係したことは必要であるが、其外は無用であるから直接病氣に關係したことだけを述べるのが必要である、直接病氣に關係したことゝ申しまするのは、身躰及精神に於て少しでも異狀があつたと思ふことをいうので……身躰或は精神に何か少しでも異常即ち平常に變つたことがあれば是れ即ち病氣にて好く此ことを網羅し細大漏らさず述べると云ふことが必要である、身躰の異狀と申しまするど他人に見ゆる異常を申します例へば痩せるとか、顔の色が悪いとか、熱を發し咳嗽を起し又或は嘔吐下痢等を來すをいふものを申します。

それから精神の異狀と申しまするのは、往々外面に現はれずして一寸分り難ことがあるが、詰り精神に異狀があると云ふことは平常は極く温順な人が俄に活潑になり、平常無口の人が饒言になり、或は夜分當り前に寢られた人が安眠することが出來なくなり、くだらないことを大層心配すると云ふやうなことが精神の異狀であります、

斯の如く身体精神に異狀があれば是をば殘さず言現はさなければなりません、然るに世間往々斯う云ふことを述べるに重きを置かず動もすれば無用のことを長々と咄される、先頃も某醫學博士に逢ひました時、言はるゝには、今病人を見て來たが、殆ど三十分間も無益なことを話されて迷惑したが、仕方がないから默つて聞いて居つた、何しても止める譯に行かなかつたが、隨分饒言の人もあつたものだと言はれたら傍に人わりて能く默つて聞いて居られたものだと言つて笑つたことがありました、それで三十分間に喋ることは僅か一分か二分で事が足りるのである、然るに例へば病歴を述べるにあたり旅行の話を始めて何月何日に船に乗つて何處へ往つたなど丶、少しも病氣に關係のないことを述べます若し船に乗つたために病氣か起つたと思ふたら其ことだけを簡單に告げるが宜い、それを頻りに船長の姓名年齢旅行の目的同行者の姓名等を始めさし甚しきは月給は幾ら取るなどゝ口角泡を飛ばしてしやべり立る人もあり、中には船の名から船賃の高低まで言ふ者がある、又何と云ふ醫師に月の何日に見て貰つた所が、其醫師の言ふには、何と云ふ病氣であると言ふたなどゝいふものもありますがそんなことは言はぬ方が宜しく病の診斷には少しも必要はない、併し轉地療養をしたことがあれば之を述べることは差支ない然し旅行中の見聞まで話すことは宜くない只何年何月よりして何十日間何處へ轉地療養をしたと云ふことを簡單に述べるが宜い、

第二には、第一に述べました身体及び精神に異狀のあることをば、悉く年月を逐ひ明際に述べることでございます、若し不順序に是を述べ、年月時代に頓着せずに今年のことも八年前のことも十年前のことも、一緒に陳述するときは何が何やら少しも分らぬ

いかなる病を發して何年に治し又其後何の病か發したるや不分明となり何處が悪いか何處が宜いか少しも分りません、凡て病氣の來歴を話すことは醫師の方では之を病歴或は既往症と申しまして詰り病氣の歴史であります、自分の病氣なり他の人の病氣なりを申す時には、例へば十年前に病氣に罹つたことがあれば十年前のことを述べ、十年前のことを述べたらそれから八年前のことを言ふと云ふやうに、漸次に過去の遠方から近い所へ及ぼして述べるのが必要である一國の歴史を記すにも其通りであつて、神代から明治の唯今まで無暗に混淆して、少しも秩序なく無頓着に敍述しましたら、其國體の性質が解りませぬ、然るに神代を逐ふて秩序的に敍述しますれば、國の性質變遷と云ふものが、明瞭に解る、是が歴史の記載法であります、病の歴史も其通りでありまして、矢張り年月を逐ふて順序正しく言はなければ、例へ自分の異状のある所を申述べましても少しも功能がないのである、

第三には、斯の如く第一第二の通りに病のある所を順序を正し年月を逐ふ明瞭に告げる他尚ほ自分の訴ふべき點を成べく漏らぬやうにしなければなりません診察が濟んでから跡で、アーモウ一つ言ふことを忘れたと云ふやうなことが往々ありますがそれは甚だ悪い、それで極く便利なのは自身述べんとするところを一寸手控に致しまして、それを基にして述べるのが便利であります、但し手控に記するにも自ら順序が要りまして失念致しませぬやうな方法を採て心得て居らなければならぬと思ひます、それは何ういたしたら宜しからうと申しますと、一番高い所は頭でありますから頭から始める……凡て頭のことを述べて、例へば頭痛がするとか記臆が宜いとか悪いとか、或は眼が痛いとか鼻が痛いとか、それから

咽喉が痛いとか云ふ風に段々上の方から下の方まで順序を逐つて話しますると醫師の方でも能く容躰が解ります、是に反して胸のことを云ふかと思ふと手のことを言ひ、頭のことを言ふかと思ふと足のことを言ふと云ふ風に、飛々切々に話しますると兎角に洩れが多い、ソレ故に今御話しました通りに、頭から始めて段々下の方まで話すやうにするが宜しい、頭なら頭痛とか眩暈とか、胸なら動悸がするとか咳が出るとか、食慾の多少大小便の通じの具合等、其時々の模樣を順序正しく或部分から或部分に達するやうに話しますると、少しも無益のことが雜りませぬで自分の訴ふる所をば明了に遺漏なく話すことが出來る、

第四は成るべく病名を述ぶることを避けるのでありますま漢語が流行致しますから近頃無暗に漢語を使ひたがる者があります、今日の醫者だの又醫學生などは無暗に漢語を使ひますが、隨分中には病人にも分らぬが、自分にも解らぬやうな言葉を使ふ者がある、然し醫師が適當の醫語(醫學上の熟語)を使ふのは普通漢語を使ふとは全く別にして普通の言葉で話をしやうとすると餘程不便にて却て意味を取違へることがありますから醫師が互に談話するときは醫學上の熟字を用ゐるは必要でありますが併ながら病人が人に對して云ふ時には、成べく醫語又は漢語を用ゐず殊に病名を言はないで、病のある所を明瞭に話した方が宜い、一寸斯う申しまると御解り難いかも知れませぬが、病名を言はずして成べく異狀のある點を述べると云ふことが必要であるといふことの一例を申しますれば私は胃膓加答兒に罹つて居りまして醫師の治療を受けましたと斯う云ふと極く單簡なやうでありますが、醫師の方では困ることがある、醫師の方では只胃膓加答兒と言はれても果してそれが胃

膓加答兒であるか、ないか知れませぬ、病人の方で其病と思つても醫師が見て果して胃膓加答兒であるかないか解らぬから、それゆへに成べく病名を言はずして膓加答兒と思ふ病徵を告げしらすことが緊用であります或時私の所へ看護婦が病人を連れて來て、頻りに病名を申しますから、其時に私が言つて聽かせました「看護婦は病名を言ふものではない病の樣子即ち、病徵を言はなければならぬ、病名を言ふたら却て間違の本になるから」と言つて深く戒めたことがありました、或は五日六日以前には其病氣であつたかも知れませぬが、今日では其病氣ではないかも知れぬ、故に大切なのは其時に惡かつた摸樣を醫者の得心の往くやうに明白に話すことが必要であります、右に胃膓加答兒の名を一例に出しましたが其病名を言はずに、其摸樣をば、例へは食物が食べられないとか、或は胃が痛かつたとか、下痢をしたとか云ふやうな、其時分に自分が苦みました摸樣をば醫師に話せばそれで宜い、病名を言つたからと言つて其人が學者のやうに見える譯でもなし、決して自慢になる話でありませぬから、有りの儘に自分の苦しい摸樣をば平たく解り易く話すのが宜しい、ソレ故に前に申しましたことは病人の心得べき規則――原則と申しましても間違ありませぬ、併し決して病名を言ふては往かぬと云ふ譯ではない、隨分參考になることもある「誰某に見せたら肋膜炎と申した」とか云ふやうなことは醫師の參考になるけれども、少しも自分の訴ふる所を言はないで病名だけを言ふへは、時とすると醫師が却て誤診の基になりますから、呉々も御注意あらんことを希望致します、倘終りに述べたいのは、藥のことであります、長く煩つて居る人、或は屢々病に罹る人は隨つて度々藥劑を服用致しまする、ソレ故に若しも長く服用致し

た藥劑が解りましたならば、醫師に斯う云ふ藥を飲んだと云ふことを申して呉れると大層參考になります、「斯う云ふ藥を此頃何の位飲んだ」とか、藥の分量から藥名まで知つて居る人は藥の名も分量も一所に云ふたが宜い、又ある藥のために眼眩を起し或は不快を來したりすることがあります、皆樣の御承知の如く「モルヒ子」は極く少量に用ゐますと隨分効がございます、所が人により之を用ゐると眩暈がするとか嘔吐を來すとか種々の害を生ずるとがあります斯う云ふことが豫て解つて居りましたら、醫師に此ことを御話下さいますると、醫師がモルヒ子を用ゐたいと思つても外の藥を代用して無用に病人を苦しますることを避け得ます、石炭酸なども其通りであります、人の性質により石炭酸にはかぶれます、隨分石炭酸のかぶれのために傷が癒つても、あとで煩ふやうなことがあります、併ながら斯う云ふやうな性質の人は、醫師に御話して下さると醫師は之を用ゐません、斯ることは啻に石炭酸ばかりではなく、色々な藥に對してもありますから其心得がなくてはなりませぬ、故に斯う云ふ場合があると云ふことを御記憶なられんことを希望致します、

それで是まで申しましたのは、醫師に對して病氣のある所を陳述致す注意でありますが、一つ私は茲に病歴を陳述するの一悪例を擧げて見ませう、即ち茲に書いて來たものがございますから、一寸讀むで見ませう

私は近來病身となりましてかねて何先生に治療を受けました又大學の何先生にも治療を受けました友人某は常に心切の人にて種々世話になりますが其人の勸により先月何日何先生の診察を乞ふために其朝九時頃先生の所へ參りました所が幸に在宅でありまして診察を願ひましたけれ

ども其先生は急しいやうで能く丁寧に診察して呉れないやうであつたから其日すぐ兼て私の知つて居ります京橋山下町に久しく開業なさる某先生の所に往つて又診察を受けました所が先生は診察の上肺病と云ふので御藥を呉れましたから其指圖通り丸藥と水藥を服用致しました近來は眩暈がいたし時々頭痛もいたし又歯も痛みます一昨年毎日熱があつたり悪寒がしたり致しましたが生れ落ちて私は健康でありました先頃人の勸めに依りまして某病院に這入り治療を受けまして間もなく退院しました所が母大病の急報に接せしに依り國に歸りました所が今にまだ病氣が癒りませぬから御診察を受けとうござります、

此樣に長々と述へ立ましても多くは無要のことを言ふて居り且本順序にて全く要領を得ませんまわ第一最初に「私は近來病氣になりました」と云ふことを述べてあるが、是は近來病氣になつたことであるから後で言ふべきことである、それを先きに話し先きに言ふべき一昨年のことを後で申しましてをります、之を歴史に例へて申すと時代の顛到であります右述べたことを改めて申しますれば「私は生れ付健康でありましたが一昨年來眩暈頭痛歯痛及び悪寒、發熱を來しました爲め諸先生に診察を受けましたがまだ癒りませぬ故今日御診察を受けたい」といふに過ぎませんで病のある所を十分に陳述しません斯樣に不十分、不順序なる陳述は極く不良でございますから、其例を擧けたのであります、扨右の次第でありますから、前申し述べたやうに順序を正しく病のある處を御述べ下さいますれば、僅かの時間で明瞭に病のある所を判斷することが出來ます、

或は醫師の方から進んで病氣に就て必要のことを尋

ねまして、始めて病のある所が知れると云ふやうなこともありますが、總て病人の方から進んで病のある所を順序克く話されますれば、醫師の爲めには大に參考となるのであります、又醫師の方で進んで尋ねる時分には、病氣に關する必要なことのみを聞きますから、萬一他に病あるときは聞き洩すことがないとも申されません例之ば胸の病氣のときには胸の病氣のことだけ聞いて、胸のことが解れば止めると云ふ風にするから成べくは醫師から問ふよりは患者の方から言つて下さる方が安心であります、

ア是まで述べましたのは醫師に對して患者が病の容躰を告げるに就ての注意でありますが、引續いて述べたいのは患者が病を診察して貰ふに就ての注意を要することがあります、それは東京などには餘計はありませぬが、隨分地方などへ參りますると澤山あるのは、診察最中醫師に對して頻りに話をする患者があります、施療の患者などになりますと、直ぐに小言を言ひますから一向差支ありませぬが、さうでなく上流社會の患者に對しては、さう無暗に小言を申す譯にも行きませず、餘程醫師が困ることがある、醫師が骨を折つて患者の身躰を診察致します最中：就中打診をするとか、或は聽診をするとか、此聽診打診共に音で病のある所を聽き分けるのでありますから、斯う云ふ際には成べく靜粛にして居りませぬければ、能く聽き分けるに困難することがあります、故に醫師が聽診器を耳に入れて聽いて居るのに、ワア〱話されては隨分困る、ソレ故に何か醫師に言ふべき必要がありましたならば、診察が濟んだ後に御述べになりますれば幾らも御話が出來る、けれども診察中に御話をされる位苦しいことはありませぬ、彼の飛脚船などに乘つて居りまする間は、必要のあることの外は極取に話が出來ぬことになつ

て居ります：：　梶取と話をしてはならぬと云ふことが梶取の居る所に書いてある、是は梶取ゞ話をして梶取が若し其話に浮かされると、ツイ船の方向を誤つて危險を來す虞れがありますから、それを戒めたものであります、それと同じく醫師が其診察最中に話をし掛けられますと、一方では話を聞き一方では病のある所を聞き分ると云ふ風になつて、診斷上に極て不利益を來たすものでございますから、患者が診察を受ける時には成べく靜謐にして話などをし掛けぬと云ふことが必要であります、

それから常に危險に思ひますのは、咳をする病人が、診察を受くる最中咳をすることがあつて醫師の顔なり口なりに痰などが着き又は這入りますと云ふと肺結核病に罹る患者であれば非常に危險であります、ソレ故に咳でもする時には必ず口の前に手又は「ハンケチ」の類を當てるのが必要であります、是に就ては只座上の御話でなく、或外國人が實際試驗した報告書を讀むで見ますると、肺結核は御承知之通り肺の中に結核菌が這入つて居りまして、其結核菌が人の身體の中に這入りますと云ふと、結核病を惹起しまする、デ咳などを致しまするると、咳と一所に結核菌が肺から外に出まして、さうして動もすれば人の肺の中に這入りまして、人に傳染しまするからして、必ず咳をする時には手を口に當てるやうにいたしたうござります、昨年アルフレット、ショッテルと云ふ人が試驗をした結果を此頃獨逸から報告して來ましたが、其報告に依ると、ショッテル氏が十二疋の南京鼠を箱の中に入れて、さうして結核患者に箱に向つて咳をいたさせまして、さうして養つて置きました、所が十二疋の中二疋は二ヶ月半から凡そ三月の間に結核になつて斃れました、同氏が自分の鼻の孔の塵埃を取り試驗致しました、同氏は澤山の

病人を診察致し身体は丈夫でありますけれども何か異状はあるまいかと思つたから前後七十五回自分の鼻の孔の塵埃を取つて試験して見た所が七十五回の中四回だけは確に結核菌が居りました、實にそれですから危險であり、皆是は患者の咳や何かから這入つたのであります、それから同氏は醫師なれば日々澤山の病人が出入しまするから或は他の者にも結核菌があるかもしれぬと思つて下男と下婢との鼻の内の塵埃を各々七八遍試験して見た所が、各々一度づゝ有毒な結核菌が居りました、尤も此男女共健全無病でありました、此事たる獨り醫師ばかりに危險でなくして、若しも家に結核で咳の出る者があつて無暗に咳を致しまするど傍に居る者は餘程注意せねばなりません、殊に毎日多數の病人を見る醫師は、餘程危險でありますから序でに御注意までに申上げるのであります、

終りに臨みまして診察の濟んだ後のことを一言申上げます、それは何かと云ふと、日本では何處へ行つても手を洗ふために、病人を見た後では水とか湯とかを出しますけれども、成べくは同時にドンナ石鹸でも宜い、色の良否品の善悪は問いません、是非石鹸を添へて出していたゞきたいのであります醫師は一人の病人を診て、其次ぎに直ぐ他の病人を診る場合が多いのでありますから　清潔法が不充分であると病に依つては傳染するものもありますから、是非石鹸を出して貰ひたいのであります、又菓子などを醫師に出しまするが、是は醫師の待遇を善くする點に向つては誠に有難いことであります が、中には傳染病のある所の主人が醫師に菓子を出すことがあります、赤痢とか腸窒扶斯とか、其他の傳染病のある時には出さぬが宜い、隨分私などもさう云ふ場合に出合して、菓子を貰ふことがあるが、それを其

處に置いて來る譯にも行きませぬから持つて來て、ソーット外へ棄てゝ仕舞ふことがある病氣の性質に因つては、待遇を宜くされる積りて出されても却て迷惑であるから、成べく菓子などは醫師に出さぬ方が宜からうと思います、併し病の性質が判つて、他に傳染しないものであれば一向差支はないが、併し菓子を出さぬでも醫者が何とも思ひませぬから、御安心なされて此習慣は御止めになるが宜しうございます、甚た長く斯う云ふことを申述べて何とも御退屈でおられましたことゝ存じます、唯聊か私の實際に就て感じましたことを申述べたのでございます。

玩具と衛生

左の篇は小兒科專門醫學博士弘田長氏の說かれたる大要の抄錄なり

近頃玩具の種類が段々增して來て中には鳥渡新工夫を凝した面白いのもあるが之を小供に買つて與へるには單に珍らしいとか奇麗なとか云ふばかりでなく、最も注意せねばならぬ點がある、それは何かと云ふに玩具に色を附けてある繪の具に非常な有毒性のが多いと云ふことで是まで繪の具の中毒からして身體をやり損ねた小供は隨分澤山あるに相違ないが直接に小供の發育に當つて居る婦人方の注意がまだ充分に行屆かないのと又醫師の方でも別段玩具の繪の具などに平生から氣を附けて居る人が少ないから偶には玩具の中毒があつても外の病氣のやうに思うて居るのも少なくないでせう英國などでは是等の中毒の調査も行屆いて居つて醫師の報告を集めたものも出來て居ますが併し文明國では一般に衛生上の注意が喧しいから玩具などに餘り有害な繪の具を用ひることも少ない、それでさへ尚は中毒者がある位であるのに我邦では未だ此邊に眼を着ける人すら先づ無いと

云つても宜しい其證據には餅菓子、干菓子のやうな食べることを目的として居る食物にさへ毒のある繪の具を使つたのがある青い餅菓子を食つて同時に五六人も腹痛を始めたといふ話は此間の新聞にもあり又俳優なんかゞ悪い白粉を用ひた爲めに其中に含んで居る鉛毒の爲めに重い病氣に罹つたのは澤山ある、衞生と云ふことに就ては食ふ物ですら此位不注意であるから况んや只だ手に持つて遊ぶ處の玩具の繪の具などに左までの注意を加へないのも尤もです併し小供には玩具と食物との見境がないから生れて三歳位になるまでの小供は手に持つたものは必らず口へ觸れて舐め回はす、是が殆んど規則のやうになつて居ることは小供の持つた玩具の繪の具が大抵剝れて居るのでも分かる、勿論剝げただけの繪の具を皆んな舐て仕舞ふたと云ふ譯ではない着物や其他の物へなすり附けて剝がしたものもありませうが其大部分は口から腹に入つたものと見ても宜しからう幸ひにそれを一時に舐めたと云ふのでないから大人なれば左程の害もありませんが些細のことにも極めて感じ易い小供のことですから僅かの毒でも直きに障るのです扨何んなものが有毒で何んなものが無毒だと云ふことを一々數へ擧げることは隨分困難であるが之に就て曩きに醫科大學藥學教授の丹波敬三氏が調査したものに依ると五十四種の玩具に於ける着色の數は凡て二百七十九色で其中には同種のものもあるから實際色素の種類は二十六種しかない夫れで其二十六の内で十八種は皆有害で只に無害無毒として使用さるべき色素は朱、胡粉、ウルトラマリーン、ズミ、鬱金、酸化鐵、蘇枋、銀箔の八種あるばかりである何んと怖ろしいではありませぬか固より同じ有害物でも其分量の多い少ないに依つて影響も同じではないです是等のことに就ては後で概要の話をす

ることゝしませうが玆に分り易い爲めに例を引けば大鼓などに塗つてある黄色は多く雌黄といふが使つてある鬼の面や人形の着物に塗つてある青い色は緑青と云つて銅の錆ですから孰れも多分の毒がある此外眼で見て色のコッテリとした嫌に毒々しいのは大抵よくない、木を彫つて作つた白の木地に墨や紅で少しづゝ彩色をしたのや瀬戸物で色を燒込んだのや上等の護謨で出來て居る犬とか人形とか云ふのは大抵宜しいです小供を愛する人は平生から此邊に注意せねばならぬ扨て又右等の毒のある繪の具を小供が舐めた時には何のやうな結果が現はれるかと云ふに是にも種々あるから一概に云ふとは出來ないですが大體から云へば是等の有毒物を舐た小供は一番に胃と腸とに其害を受ける中にも劇しい毒に當つた時には忽ち急性の腸胃カタルを起し頻りに吐瀉を催して大層苦んだ揚句、非常に身體の衰弱を來すです然るに今日までの經驗に依れば世間の父母は醫師に小供の病氣を診察させて之は腸胃のカタルであると病名を附けられるとそれで先づ安心だと氣を落ち着ける方々が多い、是は畢竟普通の腸胃カタルが大人に取つては差程の病氣でないと云ふ處から小供も多分左樣であらうと割出した考へかも知れんが消化器の病氣は小供に取つては由々敷い病氣で甚だしいのになると十二時間位で死亡するのがある但し之は有害物か腹に入つたものに就て云ふたのですが其他亞砒酸の如きは口に入れるが否や忽ち劇しい痛みを感じて事に依れば口中一面に腫上ることがある右の次第であるから玩具を買ふにも餘程の注意をせんければならぬです今害になる繪の具の大略を述べて聊か兒童の養育をなさる方々の參考に供したいと思ひます

△黄色には色々ありますが中には藤黄と云つて植物質から出來て居るのがある之を玩んで手足等に附け

るときは皮膚に刺戟を與へ口にて舐るときは腸に刺戟を與へ若しも其分量が强かつたならば急性胃腸炎を起して腹が痛み下痢等を催すです

△黄色中ピクリー酸と稱ふるものから出來たのがある若しも之が腹に入つて著しい中毒症を發した時には嘔吐、胃痛、脫汗等を催し皮膚に著しい黄色を現はし尿もまた黄色になる但し死に陷る程の中毒は少ない

△黄色の中で最も多く用ひてある繪の具は雌黄と稱へて硫化砒から出來たのがある若しも是等の砒素の爲めに急性の中毒を受けたときは劇しい吐瀉を起し隨つて種々の病氣を引起すこともあるが輕ければ間も無く全快する砒素の慢性中毒の模樣は種々あるが爰には略します

△金色にズミ、エオシーン、錫箔等を混じて出來たのがあるズミ、エオシーンは、先づ無害としてあるが錫には急性胃腸炎を起すの性質を含んで居る

△金色に銅箔を用ひたのがある銅は他の器にも隨分使つて居るものもあるが之には餘程の害を含んで居るので若しも之の急性中毒にかゝると急性胃腸炎を起します

△銀色多く鉛を用ひるので鉛には世間でも知つて居る鉛毒と云ふのがあつて中々油斷は出來ない若しも鉛を口或は腹に入れて急性中毒にでもなつた時は口中の爛れ、劇しい腹痛、發熱等を催すのである、錫を用ひて銀色に見せたものには前に金の所で述べた通りの害がある

△赤色に鉛丹と名けて鉛から出來たものがあるこれは鉛と同じ害を以て居ます

△綠色前に害があると云つた雌黄とマラヒット綠との混合したものであるから是も有害だ

△青色に綠青と云ふのを用ひる綠青は銅が酸化した

ものであるから銅の處で述べた通りの害がある只の銅よりは一層の毒を含んで居るです

玩具の試驗成蹟

右の談話に基き時事新報社は更に數種の玩具を東京衞生試驗合資會社に送り有害性物質の存否如何に付之か試驗を依賴せしに左の如き結果を得たり云々と

（有害性の物質は總て着色中に含める者と知るべし）

番號	品名	着色	有害性物質
第一	太鼓	（赤、黑、黄）	なし
第二	でん〴〵太鼓	（赤、青、黄）	砒素、銅
第三	槌	（白、赤）	なし
第四	目鏡	（赤、黑、黄）	なし
第五	鋼	（赤、金）	銅、亞鉛
第六	追羽	（赤、黑、金、白）	なし
第七	笙の笛	（淡黄）	なし
第八	獨樂	（赤、黑、黄）	なし
第九	毛毬	（赤、青、黄）	砒素
第十	おしやぶり	（肉色）	なし
第十一	鍋車	（赤、黄、青、黑）	砒素
第十二	鬼の面	（青、赤、金、黑）	砒素、銅
第十三	團扇太鼓	（赤、黄、青、黑）	砒素
第十四	相撲	（赤、青、黑、紫、白、金）	砒素、銅
第十五	旭車	（灰、赤、黄綠）	砒素、亞鉛
第十六	鳩	（赤、青、黄）	砒素、鉛
第十七	勝手道具	（赤、青、白、黄）	鉛
第十八	同	（黄）	鉛
第十九	起上り小法師	（赤、金、黑、灰）	銅

山形支會講演

○月經異常に就て

山形濟生館長　醫學士　川上雅量君述

月經異常と申しまするは每月經のある時に或は甚しく疼痛を起すとか或は出血の分量か大變に多きとか其日數か以前のときより長き間あるとか或は一旦月經の終りたる後再度出血を起すとか或は未だ月經の閉止期に達せざる年齡にありながら月經全くなくなる等を申します是より其各につき申し述へんと思ひます

第一　疼痛を起す月經又之を月經困難とも云ふ

之は月經になる前又は月經中に身體に屢々の困難或は障碍を起すとでありまして即ち下腹より腰の尾と骶にかけて鈍き痛を發すとか或は腸を切りて腹部に強き疼痛を起し之が兩脚に傳はり爲めに婦人は月經になりやしないかとの考を起させます其他は人によりましては頭痛、胃痛、吃逆、腰の疼痛、顔面痛、嘔吐、秘結、眩暈、心悸亢進・咽喉閉塞、排尿困難、逆上、神經過敏等を起します然しながら是等の困難は最も輕き時には通常充分に月經血の排泄がありますれは自然に消失するのでありますが時としますると此困難ありながら出血の量非常に多きとや又は甚だ少なきとがあります其他凝固りたる血が下り或は薄桃色の皮膚様片の混じて下ることもあります斯の如きくるしみを起しまする原因は種々でありますが先つ大躰に分ちますれば次の通りであります

甲　神經性月經困難

之は一般に怒り易く興奮し又は些細なることを氣に掛くる神經系を有する婦人に來ると多くありまして右樣の婦人は既に月經の來らんとする以前に精神の調子が變り或は怒り易くなり又は悲しみ易くなり凡て事物に感動し易くなり從て腹痛、腰痛、脚に牽引痛を起して續いて身躰の諸所に神經痛を來たします然しながら此困難は唯月經の第一日に起り第二日及び第三日には全く消失するものでありますが又中には此困難が全き月經中持續する人もあります

乙　充血性月經困難

之は多血質の婦人に多くありまして月經の來る前に既に骨盤内の臟器(子宮、卵巢、直腸等)に強き充血を起し爲めに困難を發するものを申します屢々血が反對に心臟中に充ちて心悸亢進や煩悶胸窄を起したり或は頭に上りて顔面が赤くなり逆上、頭痛、齒痛を

起します此等の困難も月經の第二日目に多く下血がありまして骨盤内の充血が去りますれば從て消失するものであります

丙　疾病性月經困難

之は子宮全躰の發育が不充分なる場合又は子宮口の狹窄の爲め又は子宮内膜炎又は子宮口の閉塞又は子宮躰の屈傾、又は慢性子宮頸の腫脹又は子宮の腫瘍又は卵巣の疾病ある婦人に來るものでありまして其中屢あるものは子宮内膜炎と子宮口の狹窄のある爲めに起るものでもりまして月經のとき子宮内膜の一部分破壞し血と共に出るとかあります之は通例産のときの如き疼痛を起すとかあります

婦人若し月經時に疼痛甚敷とか又は他の苦痛を發する場合には速に專門の醫に診察を乞ひ神經性月經困難なるか又は充血性のものなるか又に何か疾病の在る爲めなるかの判斷を受くることを御勸め申す何となれば其種類の異なるに從て其養生法も其治療法も差別がありますものより即ち神經性のものなれば之を輕くするに藥劑を用ひ又充血性のものなれば其充血を去らしむる手段があります

又屢々坐職する婦人が運動をなさらざる婦人は月經困難を起しますから然る方には海邊に又は森林に行かれ一ケ月も適宜に運動をなさるとか又は日々庭園に散歩をなさるとか臺所を下婢にのみ任せず共に御働きになるとか夜分下女を使ひに出すときは一所に御出掛けなさるのが宜敷あります

又常に憂苦に在る婦人も屢月經困難を起します此場合には成るべく自分より憂苦の原因に遠ざかり又家人は之を慰め其心痛を避くる樣になせば自然に快復するとがあります際に未婚の少女にて永く心痛をしますれば鬱憂症と云ふ病を起し精神に異狀を發することがありまり故に能く注意するのが肝要でありま

す

以上の月經困難も永く續きますと通常慢性の胃病を起しますなは矢張り神經の關係にて來るものでありますなんとなれば子宮と胃は其神經系が交通して居りますからでありますの此故に困難ある婦人は適當なる食養生と生活上の注意は最も必要でありまして第一に便通を調ふることが急務であります婦人は多く大便の秘結に傾く癖があるものですから其節には藥舖にて人工カルヽス泉鹽と云ふ藥を求めなされ之を茶匙に半分より二杯位の間を取り一合ばかりの湯に溶解し朝空腹のときに飲みて後ち朝食を召し上りませ其他濃きコーヒ、酒類を禁じ身躰を成るべく安靜に保ち下腹が劇しく疼痛を起して堪へられざるときはフラネルの帶位の巾の布に冷水を浸し之を搾りて腹に卷き其上に乾きたる西洋手拭を卷き置けば少しは輕くなることがあります

（此講話未完）



寄書

肺病豫防養生法（第十一）

醫學士　竹中成憲君

飲物の事

牛乳は毎朝一合以上用ゆるが良し極上等の酒少つゝ用ゐて良し下等の葡萄酒は反て害あり（乳の事は後に詳なり）

我國牛乳使用の濫觴は「孝徳天皇の御代に三韓より歸化したる善那といふもの年頃飼ひける牛より搾りつる乳を奉りたる時　天皇は其きゝめの有るしきを賞め玉へて善那へ和藥使主の姓を給へり」と聞けり出典は今述へず極近の「善那」とは無論別人

「ブランデー」少々は害なし上等ビールは滋養になるものを含むが故に大に良し一貫目の上等ビールは醫

學上牛乳百廿匁と同じ滋養になるものを含むなり

麥酒は瓶に詰めてより餘り日數を經たるものはよろしからず又麥酒は暗き冷所に貯ふべきものなる（例之は穴藏）か故に日のわたる店頭にさらしたる者はよろしからず田舎には腐敗したる「ビール」を飲み毎回下痢するを以て「ビール」ハ「通じ」を良くするなど〻平氣なる人あり善く注意すべき事なり

麥酒は脚氣の豫防となり又治療の効もありとは予の持論なり（脚氣麥酒論は拙著「日本小内科學」に記し置けり）

麥酒は瓶を開きたれば即時に之を盡さされば後には變化（にごる）して用に立たず然るに翌日其殘餘を用ゆる人ありよろしからず若し朝のものを夕に用ゆるときは瓶を倒にして室の隅に立て掛けおくべし「さかさま」にしてあれば半日位は置くもよし故に普通用ゆるには小瓶（二合入）を買入るゝを良とす

冬期麥酒を用ゆるに先ち其瓶を寸時の間、暖爐の傍に置き而して後之を開くを法とす麥酒に氷片を入れ氷冷なるものを用ゆるに麥酒の眞味を知らさるものなりといふ然れども吾國人は概して冷きを好むか如し

「スタウト」は英國製の黒麥酒にして獨逸語にて「ポルテル」と云ふ滋養品なりとて泰西民間に賞用す

麥酒は上記の如く他の飲料になき優點あり則ち其滋養分を含むを以て醫學の所謂嗜好品（なぐさみもの）たると同時に又榮養品たる非是なり之を常に用ゆるときは身體肥滿す然れども此肥滿は脂肪（あぶら）の増加するものにして既に肥滿せる諸君には望むものにあらず之に反して麥酒は虛弱なる人には大に良し

又日本酒の多量に慣れたるもの腦病狀を呈し禁酒せざるべからざる時等日本酒に代用せしむるも可なり

日本酒は百分の十四「アルコホル」を含むも麥酒は僅々百分の四以

内に過ぎざるを以て害なし

○牛は人間と同じく肺病に罹り易きものなり若し乳を搾るべき牛に肺病あるときは其搾りたる乳の中に肺病の「バクテリア」を含む事あり故に安全なる牛乳にあらざれば用ひざるが良し假令安全なる乳と信ずるも一回煮沸して後に之を用ゆるを良とす煮沸すれば「バクテリア」は死して無害となるなり（原因の部參照）

狡猾なる牛乳商は牛乳に米泔汁等を入れることあり醫師及藥劑師は之を看破するの法を知れるもの故便宜檢査を受くべし古來鷄卵の類物とてはなきものなれば専ら鷄卵を用ゆるが良し鷄卵は一個一合の牛乳に相當せる滋養分を含むものなり

牛乳は煮沸して用ゐるを良とすと雖其煮沸の後上に浮ぶ所の皮（膜又「ねば」といふ）を取去る可らず是最も滋養分を含むものなり

西洋人の色白きは牛乳の爲めなり日本人の子も牛乳を用ゆれば
西洋人の如くなる（成志）

「コンデンスド、ミルク」は大に良し米國製鷲印を用ふべし僞物多し注意すべし

和製煉乳（コンデンスド、ミルク）にて東京小石川戸崎町九十六番地川村泰治氏の發賣するものは和製中の上品なるべし

和製中「日本一桃太郎」印「コンデンスド、ミルク」なるものあり貝島某氏の製にして東京日本橋區本町二丁目鈴木恒吉氏之を發賣す

鶴印煉乳「コンデンスド、ミルク」は東京々橋區鈴屋町十四番地長井越往氏の釀製に係る

牛印「コンデンスド、ミルク」は東京々橋區仲橋廣小路町野澤商店の發賣に係る福島縣産のものなり

「コンデンスド、ミルク」の種類多し左の如し×印を上等とす

和製品

鶴印　桃太郎印　岩瀬牛印

象印　富士山印　六稜印

舶製猴印　花唐兒印

外國製

×眞正甃印　藍色人形印　彩色人形印

熊印　八旗印　鴻ノ巣印

○○○肉羹汁(ソップ)は昔は醫者も素人も大に効ある如く稱したれども効なきものなり「ソップ」は只加里剤を含むを以て死に瀕するものに用て僅に心臓を激ます位の價値に止るものと知るへし何となれば肉羹汁(ソップ)一合に固形體僅に一匁あり而して是皆體質の分解を補ひ又は體温を醸すに必要なるものにあらずして只興奮剤となるのみなれはなり故に主人の「ソップ」を喫し下男の「ソップ」糟を食するは主從互に食を轉倒せるものなり

東京麻布飯倉町五丁目四十四番地廣川市郎氏製鷄肉精煉なるものあり「ソップ」の塊の如きものなり

舶來の牛肉「エキス」良し價高しリービヒ氏肉「エキス」といふ

自家釀造の酒は所謂「フーゼル」油多きものにして害あり健者には敢て有害とすべからざるも病者には之を用ゆべからず

抑も葡萄酒(赤酒)の上等なるものは砂糖の味なくして澁く我國人の敢て之を嗜好せざるものに在ては美味と稱すべからず而して其價は上等品なれば一本に付金二圓以上二十圓にも至るものにして決して彼の所謂葡萄酒などの如く五十錢以下を以て買ひ得るものにあらず葡萄酒に砂糖藥品等を入れたる者なれば其價二圓を超過せざれば出來難や明なり然るに此如廉なるは第一原品の葡萄酒を稀薄にしたるか又は原品の下等品を使用したるものと斷定せざるべからず

元來葡萄酒は西洋に在ては中等以上の家に於て來客の有無に關せず殆んど毎夕卓上に升らざることなし

故に敢て病者あるの故を以て葡萄酒を賞用するにあらず葡萄酒を以て長命酒なりと思考するは日本酒なき國即ち西洋の書物を直譯せるものゝ誤見と云はざるべからず

故に富者にして上記の上等品を買ひ得ば可なりと雖我國中等の程度として之を使用し得ざるものは不正の葡萄酒を飲むよりも寧ろ櫻正宗に甘ずるに若かず菊正宗、春駒、千歳、キ印等亦良し

香竄葡萄酒の類にて極上等を佛國製幾那葡萄酒（サン、ラフェル葡萄酒）とす小瓶にして價一瓶一圓廿錢位なり先年横濱「ワグレ」商會之を開き現今横濱境町尾張屋豊吉氏之を發賣す全國洋酒店藥種店に照會せらるべし

東京木挽町大日本製藥合資會社製の天然葡萄酒なるものあり純良なるものと信ず販賣所は東京京橋區銀座町十四番地長井越作氏なり

和製中にては甲州産の生葡萄酒良しからむ

札幌谷氏は二十餘年前より葡萄酒の釀造に從事し目下二十年を經たるものを有すと云ふ該地方の最上ならん

卵酒（玉子酒）は西洋に於ても之を賞用す例之は洋書にも左の處方あり

「ブランデー」	六〇、〇	此處方を「ストークス氏水劑」と云ふ
水	六〇、〇	
玉子の黄身	一ケ	
砂糖	二〇、〇	

右二時間毎に一食匙つゝ

又西洋に「ビール」を燗して玉子を入れ用ゆる法あり

概括して云へは酒も適度に用ゆれは宜しきなり酒は少量に用ゆるときは興奮劑にして多量に用ゆるときは麻醉劑なり興奮劑に止めて麻醉劑たらしむると

なければ可なり

凡そ酒は人類の嗜好品として缺くべからざる者の如し其證據は上、文明の民より下、野蠻の土人に至るまで自國固有の酒類を有せざるとなし而して其用度宜を得ば實に百藥の長たり、壯時、酒を嗜まざるもの老年に及び之を慣用し健康者に倍し長壽を保し例少からず現に之を醫學的統計に徴するに全く酒を嗜まざるものよりも稍、酒を嗜むものゝ方命數長し然れ共一朝其量を誤れば其害實に恐るべきなり犯罪者、精神病者等を釀すもの此飲料に原因すると少とせず故に人云ふ酒は飲むべし飲むべからず又曰く酒は飲むべし醉ふべからず蓋し酒は各國軍隊に於て公許す即ち兵營内に於て之を鬻ぐ然れども其採る所の方針は飲むべし醉ふべからざるに在るなり

或日、江蘇日報三頁の書き出しに

「酒は盃を拂ふ玉箒と誰かいひ初めにけんなど〻小言を述ぶる迄もなく一杯や二杯は生理學上血液の循環を助け精神を興奮せしむるを以て竹中醫學士に聞く迄もなく無論衛生上に有益なることは地球大の印形をベッタリ押して保證するな憚らされども三杯三杯また三杯と立て續けに飲んでからは笑ひ上戸泣上戸さては怒りだす上戸なさへ作出來して終には無分別なる昨夜の恥共に追悔の臍な噛德利が怨めしかる次第さなるものなり」云々

讀者の名な引用するの必用なきも面白き句あるゆへに切抜き置つ

「アイヌ」土人は稗を以て酒を作り之を用ゆ「とのと」と稱するもの是なり

概して酒は寒國に在ては之を用ゆるも害少し唯暖國に於ては注意すべし殊に燒酎の如き強きものは肝臟病を發するの恐あり琉球に於て「泡盛」を用ゆるも土人は之を燗して用ゆ燗すれば「アルコール」の一部飛散して酒力弱くなるなり

北越に於て「ねりこ」と稱し米を嚙み製せしものを重病者に與ふるとあり健全なる母自製して其兒に與るは極めて良きも其他は不可也充分清潔に製すべし

病者熱ありて水又は氷を望む時は前以て水を沸騰し之を瓶に入れ氷を以つて固ひて冷却せしめ（沸しさ

ましゝ之を用ふべし元來夏期氷を用るは西洋より輸入せし風習なるも彼國にては氷は飲食物を冷すに止り氷其物を直接に用ると稀なり（寒中たりとも上等の洋食にはアイスクリーム現はるゝとあり蓋し肉食する時は寒中尚冷物を好む）氷を直接に用ゆれば胃を害す

米國人は食事の終りに「アイスクリーム」を用ひ直に之に續きて熱き「コーヒー」を用ゆるもの多し胃の爲めに甚惡し

臺灣の生蕃飲酒するときは大なる茶碗に酌み之に二人口を接し同時に吞むこれ交際上の親密なるを表示する者なりと云ふ諸病傳染の恐あり

若し不幸にして眞の肥へるにあらずして所謂「水ふとり」（肥滿症）に罹るの樣子あれば水を飲むべからず

但し肥滿症は大人には多く雖も幼年諸君には殆んど此心配なし兩親の內一方本症ありたる人には多く之に罹る即ち肥滿病は遺傳するものなり

肥滿せるものは多く水を飲むの癖あり肥滿病を豫防し又肥滿病を治するには水を飲むべからず某新聞に

「橋本西州體軀肥大宛然たる幕內力士なり夏日に至れば輙ち水を飲まず湯を啜せず節制極めて嚴し或人問ふ「善くソー辛抱が出來ますね」と西州肥りたる顋を撫でつゝ「そこが豪傑な處じや」と云ふ聞く星亨も亦體軀の肥滿せる爲め湯茶を啜せずと衆議院に議長たるものは肥大にして飲料を用ひざるの一資格を要するか呵々」云々

予亦之に追加して「片岡健吉氏亦議長として軀幹大蓋し議長たるの一資格？」といふ

（以下次號）

食物調理法

内外實用料理（第五）

横井たま子

◉病人用飯の二句たき

○かゆにもおよばずされば通常の飯にては堅過ると云ふおりには左にすべし

土鍋に瀬戸の引たる鍋に飯を七分程入れ其上より湯を懸け飯のかたまりのなき様になして其湯をしぼり而して強からぬ火の上にかけてあたゝめ蒸せたる時食すべし、但し水氣なきまでよく蒸たるをよしとす

◉かゆの拵へ方

常のかゆは生米を鍋に四分の一を入れ水を充分に入てとろ／＼煮るなり水減したる時は時々湯をさすべし度々かき廻す時はべと／＼になりて味ひよろしからず米はよく煮ておもゆも在りてさらりと煮たる方よろし食前適宜に焼鹽を加ふべし

◉煎り米のかゆ

生米をほうろくにてざつと煎り而して前の如くに水より煮るなり香ばしくて風味よろし

◉おもゆの拵へ方

生米を深き鍋に入れ水を澤山入れ二時間も煮て清き篩にて漉して食すべし

略にはかゆもおもゆも飯より拵へてもよろし

◉牛乳と玉子のかゆ

飯を擂り鉢にてよく擂り篩にて、漉はのりの如くなるなり、此中に牛乳(見斗ひ)に玉子一ッを入れてよくかき交ぜ鹽少し入てどろ／＼に成まで煮て食すれば病人のためによろし。又同し仕方にて玉子をきみ

と白身を割け、きみのみ先に交ぜ一番後にて白身を皿に入れ、匙にて掻廻し白雪の如く泡たゝせ、之をも交合すればふわ〳〵して尤もよろし青年者には牛乳を嫌ふものまれなれども老人には儘あれば牛乳のにほひを失ふにはうすくすべし

◉雪中の梅

梅干を五個か六個位器物の中に並べ其上に大根おろしを絞らずして澤山に入れ抑へ置くなり暫時しておろしと共に梅を食すべし殆ど鹽氣はおろしに含まれていづれも中々美味なり風引病人の爲には尤もよし但し朝食するには前夜おろしを入れ蓋をなし置べしさすれば丁度食ころなり

◉湯豆腐

豆腐を奴に切り中鍋に入れて湯煮し醬油を千代口か湯吞茶わんに入れ其中へ鰹を入れ汁をあたゝめる爲鍋の中へすへ置き豆腐の煮へたる時網杓子にて小皿に掬ひとり汁を懸け香料を添へて食すべし、(香料は葱を細かに刻み又は淺草海苔をあぶりもみて添ゆべし)

他の仕方は豆腐と共に魚を小さく切身にし三ッ葉、新ぎく、菠薐の類之をも豆腐とまじらぬ樣に片わらへ一所に鍋の中へ入れて湯煮し汁は前と同しく千代口を鍋の中に入れ醬油を入れ其中へ橙々の生酢をしぼり込み之をつけて食すれば滋養もあり寒き夜には格別よろし

之をちりとなづく、魚は何品にてもよろしけれども先づ鯛、鱸、鯒、鱈、下魚にては鮃杯もよし、又豆腐を柔らかにする仕方は湯の中へ鹽少し入るゝか又はソーダを入れて湯煮すればあたかも絹ごし豆腐の如く柔かになるなり

折衷西洋料理

◉蛸のカレイ

蜊のむき身を水にてよく洗ひ湯で丶煮汁より引上げ畳き葱を細かに刻み牛の油にて煎りつけ、胡蘿蔔、ジヤガ芋椎たけをも細かにきざみ前にむき身を湯でたる煮汁にて野菜類を先に煮て柔かになりたる時むき身と葱を交ぜ麥粉を水にてとかし汁の中へ入れ鹽と砂糖にて加減をし近來流行のつぶし麥の飯をたき温き飯を皿に盛り其上にカレイを懸けて食すべし・此カレイ飯を食するには、ピツクル（西洋の漬物なり）を添へて食すれば共に味ひよし然からざれば、辣づけ、味噌づけの香物、又は茄の芥漬杯にてもかなり

但しピツクルの製法は夏秋にものすべし

◎乳蒸の牡蠣

新しき牡蠣のむき身を凡そ三合位其かきの液汁の中に浸し温き鍋に一合の牛乳を注ぎて其中に入れ鹽のみにて加減をし火にかけ凡そ十分間蒸煮にしたる後之を深き皿にあけさいの目に切りたるパン、と刻みたる芹各々少しを加へて食すべし

◎干葡萄の蒸菓子

一牛乳一合○鹽小匙半分

一大玉子一個○豚の製油　小匙半分

一ヘキンパート（パンをふくらしむる粉）小匙一ツ　又はソーダにてもよろし

一麥の粉　三合位

一干葡萄　十錢か十四五錢位

初め鉢の中にて玉子をとかし麥の粉を交ぜ牛乳を少しづゝ入れどろ／＼に交ぜたる中へ鹽、豚の油か、牛の油、ベキンパート、干葡萄を入れてよく交るなり（干ぶどうはたねを去るべし）而して四角の布切に流し込（こぼれぬやうに注意すべし）四すみをゆるくしぼり糸にて結び而して釜の底にざるを敷きて一時間斗り蒸すなり、略に付鍋に篩を俯

せて其上に布に包みたる蓋にてもよし、志かすれば
ゆるめたる鷄卵の一ぱいにさん重の如くふくれてかたくなるなり蒸し加減を計りあたゝかき處を形のくづれぬやう布を取り去り菓子皿に移り多分になるべくあたゝかき内容に出し之をなくさのやうに切り砂糖蜜、蜂蜜、又は(ソース)をつけて食すべし、ソースの製法はバタを大匙一ツに砂糖大匙四ツ位のバタをよく〲掻まわすれば真白きものとなる之を小さき器に入れ小匙をつけて出すべし右は適宜に懸けて食すべし、此蒸菓子は冬用ゆるに至り手數もかゝらずして味ひ美なり、但し干葡萄のかはりにところ柿を切りて用ゆるもよし

◎御斷り

看護法及皮膚病の續稿掲出すべきの處同欄擔任の醫學士には腹膜より腸窒扶斯に續發性の恐れあり直ちに大學醫院に入院療養快方に赴きしを以て快癒次第其うめ合せ致すべく諸姉願くは諒察を垂れよ

衛生叢談



◎鬼舐頭(即禿髪病)の話

◎禿髪病の症狀

此頃流行せる圓形禿髪病は一名鬼舐頭俗に臺灣坊主と唱へ知らぬ間に恰かもペチ〲に舐められしかの如く頭髪が團く急に禿げる病にして禿げる前には少し痒ゆみあり別に痛みもなく次第に大小數個の禿げを生じ遂には藥罐頭となり眉毛、睫毛、鬚、鼻毛迄も抜けて實に氣味惡しき奇病なり

◎原因

此病氣の原因に二種あり傳染性と神經性より起る

傳染性は一種の寄生蟲より成るの糸狀菌にして理髪器械其他より傳染するものなり是れは假令へ頭髮脫落するも晩かれ早かれ回復の見込あれども神經性のものは營養不足、精神過勞、衰弱等によりて脫落するものなれば其回復容易ならず又斷髮性匐行疹と云ふ病あり是れこそは確かに「トリコヒートン」と云ふ糸狀菌の爲めに起る病ひにして頭につくときは髮が圓形に煩かくきれる之を世間の人が禿髮病の原因として混同するは全く誤りたるものにして不潔なる剃刀、鋏等より多く傳染するものなり

◉豫防法

第一に頭を清潔にすることゝソレには日本の丸髷、島田等は不適當なれば束髮を最も便とす併し人によると私には束髮は似合ひませんなどゝおつしやる方もあるが束髮は元と日本古代より行はれしものにして髮を結ふことは中古以來のことと嗜き嫌ひはさて措き禿げ頭がおいやならば豫防が專一束髮を最とす男子は毎日頭を洗ひフケ又は脂氣を去る樣になし理髮所の器械は充分消毒せしめ女子は女髮結の道具を一切用ゐることなく此際道具を新調し髮結の手は消毒せしむる樣になし成るべくならば家內の女同士にて互ひに結ひ合ひ若しくは獨りで結ひ男子ならば自分で機械を買ひ刈りもし剃りもするに至ればコレ程安全なることはなく經濟上よりするも疾病の上より見ても一擧兩得束髮の利便はマダコレ丈でなし傳染の虞ある旅人宿の枕、患者の使用したる櫛、笄、頭巾、剃刀、鋏は勿論手拭其他は大に注意を加ふべく其器物により二十倍石炭酸水又は五十倍の一フオルマリン」水に浸して消毒を行ふことと緊要なり

◉理髮店の危險

禿髮病のみならず理髮店は色々の病の媒介所にして假令へば梅毒で小さな豆つぶ程の出來物が二ツ三ツ

頭にできて居ると其次に坐ッた客の頭をかく時ふけ取の歯に着いた前の客の毒を次の客の頭に摺り付ける樣なもので誠に危險なものなれば極めて淸潔にしなければならぬが消毒盛行の當時は大分消毒も行はれしが近頃に至りては大に緩るみ中にはコンナ面倒臭ひことは御客さんが好かぬ御客さんはマダソンナことしているかと笑いますから近來は止めましたなどゝ山の手邊の床屋はすまし込んで居るものもある床屋の無學は許すとしても敎育ある御客の此の言をなすに至りては實に驚の外なし現に濠國ウ井ンナにては別に取締法なきも消毒法よく行き屆き居り消毒不充分なるときは客より注意せしむと云へは衛生思想の發達も我より一般に進みたるものと云ふべし

◉流行地

此病は巴里近邊にも極めて多く流行したることありて同地のサンルイ病院の外來患者の數は驚く程なりといふ先頃より我國にても大阪地方に流行するに至り靜岡邊より追々東進して近來當地にも侵入し牛込區内にても廿餘名以上の感染者あり該者達などは一方ならず心配し髮結ひの道具は一切使用せぬことに相談したりと新聞に見へしが京橋區新富町の藝者の中にも五六名の患者を出し其他各區よりボツ〳〵發生して女性に割合に多しとのことなれば此際各自の注意こそ尤も緊要なり

◉大學皮膚病科の今!!

近頃此病の東京附近に多く流行するや大學病院の皮膚病科(土肥博士擔任)外來には診察日毎に數名の禿髮病患者の來らざる日とてなき程なりといふ

◉其筋の注意

警視廳にては府下各警察署に令して理髮所を充分取締らしめ且監視者を特派して夫々消毒の有無を嚴重取調べ又一方には戸口調査を行ひ大に豫防を圖るべ

しいふ

◉「ソマトーゼ」に就て

「ソマトーゼ」は非常なる營養物と思ひ居たるが本會に於ける隈川博士の演説によれば分析の結果「ソマトーゼ」の滋價は蛋白質量に於て牛乳の三分の一以下、牛肉の七分の一、鷄卵の約六分の一、又張力に於て牛乳の十七分の一、牛肉の十六分の一、鷄卵の十八分の一なり右の如く「ソマトーゼ」の滋價は牛乳、牛肉、鷄卵等の滋價に及ばざる甚だ遠し殊に少しく多量に用ゆれば消化機を害し下痢を起すが故に一種特別なる滋養品に非ざることを明かなるのみならず自然の滋養品を食し得る患者がソマトーゼを用うるは毫も其理由なく殆んど兒戯に均し云々（詳細なる演説は氏の校閲次第本誌に登載すべし）

◉歯磨粉に就て

歯牙は琺瑯質を以て包まれ其質は陶器の釉藥と恰も同一にして強烈なる藥品に遭ふとも殆んど侵喰せらるゝことなし其の内部は石灰鹽に富めるものにして人により多少琺瑯質に裂け目ひゞの入りあるときは不溶解性の石灰鹽は變じて溶解性となり遂にに空洞を生ずるに至る凡そ酸性のものは大に害あり明礬、「サリチール」酸、硼酸等苟くも冷、熱水に溶け酸性反應を呈するものは皆歯磨粉の原料とし用ゐるは歯牙の衛生上有害なり

近事片々

毛髪の成長　毛髪の生長する割合は人に依り一定せざれども美人の如きは其成長最も速やかなる人種にして平均男子は十二インチ乃至十四インチ生長し女子にありては稀に七十インチ乃至七十五インチの生長を見ると雖も女子の平均は二十五インチ乃至三十

インチなりと●獸類は人より長く斷食に堪へることを得て伊太利の地震の時一匹の犬は三十三日間地中に生存せしといふ●樹木と人間の健康　其昔し西班牙の山林鬱蒼たりしときは南歐の樂園なりしが樹木伐採せられてよりは歐洲の貧弱國となり又大森林を有せしシ、リー島は躰育家哲學家英雄豪傑豪商を産せしが禿山多き今日の名物は乞食のみなりと●最近の統計によれば我邦にて去る明治三十一年十二月迄に百歳以上の長壽者は三百三十四人にして天明七年生れ(百十二歳)を最高とす●今日の動物中最も長壽なるものは鯨なるべしと三百歳四百歳の鯨は屢々捕獲せらるゝことあり鯨の大さと鯨骨附の増加數によりて知るを得べし●頭の禿げ易き人は赤髮の人に多く赤髮の人は黑髮の人よりは神經過敏なりと如何にや●ランプのホヤのわれぬ法　ホヤを冷水を入れたる壺に入れ食鹽少しを加へ沸騰し靜に冷やすときは甚だ丈夫となる此法は陶磁器にも應用して効あり又ホヤの外周にきずを付け置くもよく破裂を防ぎ得べしといふ●シカゴの一外科醫は如何なる躰質の人にも安全なる全身麻痺を施行するの新方法を發見し患者に苦痛を感せしめず又睡眠せしむることなき方法にして背椎溝にコカインの注射をなすにありといふ●大阪に於ける去月十四日より同三十一日迄にペスト豫防接種人員は總計五千三百七十八名にして一日平均五百七十五人なりしと●又一昨年十一月初發以來昨年末迄のペスト患者總數は百六十一人内全治十一人治療中五人なりと●此程赤坂警察署の管内湯屋へ諭達せし衞生上の注意により各區の湯屋組合は申合せ牛込區にても板の間へ痰を吐くこと溝へ放尿することと湯の中にてシャボン及ぬかを用ゐること御無用との張札をなしたりスルト床屋の親爺がヤッて來て痰壺を見て今度は湯屋の消毒だなと云つたの

て無骨の三助も覺えず笑ひ出した●大坂市に於ける三十二年十二月二日ペスト初發以來今日迄のペストの有斃鼠數は百十九匹の多きに達せりといふ

●洗濯液の定價に就て

嘗て本會に於て演説せられたる古川醫學士の洗濯液は極めて簡便有益なることは本誌第百三十三號に掲載せしが其後態々同醫學士より代價の事を正確に申し越されたり右洗濯液の代洒は一ポンドに付内容丈(金壹錢)の筈にて容器は實費を申し受くる譯にて淺草松葉町の東京瓦斯消毒所(電話浪花千七百一番)に申し込めば購求し得べしといふ

中外彙報

●天恩優渥

大阪府大阪市に「ペスト」病豫防の方法苦慮劃策の趣聞食され　天皇、皇后兩陛下より舊臘二十日を以て金三千圓を同市に下し賜ひたり

又帝國大學第二醫院燒失の際負傷者少からざる趣憫然に思召され　聖上皇后兩陛下より死者二十二人に祭粢料各五圓傷者四十七人に菓子料各二圓五十錢を下し賜ひたり

●東京市の傳染病統計

東京市役所衛生課の石田技手が調査せる最近八年間の傳染病統計に據れば明治廿五年以降同卅二年迄に虎列剌の最も多かりしは明治廿八年及廿九年にして其數廿八年は二千八百五十七死亡二千二百人赤痢は明治三十年に千八百十九人死亡六百八十人翌卅一年千九百七十三人死亡三百九人を最多とし東京市に於ける地方風土病とも稱せらるべき腸窒扶斯は明治廿五年廿六年廿九年卅一年を比較的多數發生の歲となし二千二百九十四人の患者に六百八十三人の死亡ありたる事あり痘瘡の最も流行せるは廿五年廿九年卅年にして六千人に達する患者及其四分の一以上の死者ありし歲少なからず實扶垤利亞は年々多數の發生ありと雖も就中廿九年卅年卅一年最も多く卅年に二千十九人(死亡五百十二人)を著大とし猩紅熱は明治卅年以來年々三十乃至二十名の患者を出し發疹窒扶斯は發生頗る緩慢にして黑死病に至りては幸にして未だ一人の患者を見ず而して八年間の傳染病患者及死亡數總計は左の如し

	患者數	死亡數		患者數	死亡數
明治廿五年	八、七二六	二、五九八	同廿六年	二、七三七	一、二〇九
同　廿七年	一、七五五	六三三	同廿八年	四、七四一	二、七三四
同　廿九年	五、九五二	一、八三四	同三十年	一〇、五二一	三、四一一
同　卅一年	三、七六八	九三八	同卅二年	三、一五〇	六九五

◉嬰兒と一日の飲食回數

オッペン、ハイム氏の研究によれば嬰兒の飲食は常に時間を定め且つ一定の分量を與ふるの可なることを説き最初一ヶ年の飲食の一日の回數より隔つる時間等を左の如く表に作りてこれを公にせり嬰兒養護の中最も肝要なるは飲食にしあれば特に注意ありたきものなり

年齡	隔間時間	一回の分量	一日の回數
一週間	二時間	三〇瓦	一〇
二週間	二時間	四五瓦	一〇
三週間	二時間	六〇瓦	一〇
二ヶ月	二時間	七五瓦	一〇
二ヶ月半	二時間半	九〇瓦	九
三ヶ月	二時間半	一〇五瓦	八
四ヶ月	三時間	一二四瓦	七
五ヶ月	三時間	一三五瓦	七
六ヶ月	三時間	一六五瓦	六
七ヶ月	三時間	一九五瓦	六
八ヶ月	三時間半	二[illegible]〇瓦	六
九ヶ月	三時間半	二一[illegible]瓦	六
十ヶ月	三時間半	二五五瓦	五
十一ヶ月	三時間半	二六四瓦	五
十二ヶ月	三時間半	二七〇瓦	五

◉流行性感冒に就き

毎年一月より二月にかけては寒暖の差時々甚だしきため流行性感冒の最も盛んなる時なるが本年は特に其の流行甚だしく府下にありては大約十人に對する一人即ち一割弱の勢ひを以て日に患者の數を増加し居れり今回の感冒は頗る悪性なるものにして間々腹膜炎を惹起し果ては肺臓炎を起し窒扶斯に變ずるに至る感冒のみと夢め〳〵苟且にし賜ふな

◉飲食物器具取締に就て

昨年十二月内務省令を以て該取締規則を發布したるより陶磁器業者中には其解釋を誤り一般琺瑯又は釉藥を使用したるものは殆んど飲食用に供する能はざるが如く感ずるものある由なるも直接飲食物に觸接する部分即ち内面に使用するは同規則の禁ずる處なるも外部に使用するは更に差支なき筈にして且内部に使用するも煮沸の用に供せざる茶碗、皿、鉢、

菓子器の如きものは無論同規則の制裁を受くるものにあらずと云ふ

●全國醫師の員數

明治三十三年一月一日現在全國醫師員數及一昨卅二年中醫術開業免狀下附の者幷醫師死亡廢業の類別左の如し

種別	全國醫師員數卅三年一月一日現在	三十二年中 免狀下付	三十二年中 死亡	三十二年中 廢業
試驗	九、八八四	七二五	七二	一
大學卒業	一、五〇三	三一	一〇	：
高等學校卒業	二、〇九九	二七〇	一二	：
府縣立醫學校卒業	二、三三九	一七〇	一九	：
奉職履歷	一、三一一	一	二九	一
外國醫學校卒業	八七	三四	：	：
從來開業	二二、五八一	二	六四〇	一九
限地開業	四八三	一二	八	五
合計	四〇、二八七	一、二四五	七九〇	二六

備考　一本表免狀下附の欄外國醫學校卒業の中「米國人一六、英國人七、獨逸國人三、佛國人一、和蘭人一」を含む又同欄從來開業の二　奉職履歷の一は復業に係り免狀下附せしものなり

●東京市の衛生講習會

東京市役所にては各區役所衛生係をして每月數回技師の講義を聽聞せしめ以て衛生事務に資するの目的にて衛生講習會なるものを組織する筈にて其回數日間及方法等は過日の衛生主任會にて協議せる由

●臺灣黑死病況

臺灣に於る本月一日より一週間內の黑死病は臺北縣患者死者各二人臺南縣患者十九人死者二十一人にして本年初發以來の總數患者百十九人死者八十九人なりといふ

●鵞口瘡の統計

牛疫鵞口瘡は初發より去る廿二日迄に乳牛の鵞口瘡に罹りしは八百五十一頭にして內全治六百七十七頭にて目下現在罹病中は差引二百十四頭なりと

●昨年中赤痢病患者の統計

市立駒込病院に於て昨年中收容したる赤痢患者に就て詳細なる統計表を公にしたるが略左の如し

▲患者總數　四百三十名、內男二百四十一名、女百八十九名、年齡十三才以下八十五名、十三才以上三百四十五名

▲患者在院日數　最長　百三十二日、最短　一時二十分、平均二十六日四六强　内全治者在院最長　百三十二日、最短　六日、平均二十九日一一二弱　死亡者在院　最長　八十日、最短　一時二十分、平均　十四日七二九强
▲全治者　三百四十五名▲死亡者　八十五名▲下痢回數　最多五十八回、平均　十二回四七八弱▲再發患者數　五名▲慢性に轉したる患者數　五十七名

◉川崎の狂水病

川崎在大師河原村字四ッ谷三千百十七、農長島清二郎は去月廿日大師門前にて野犬に右足を咬まれしを其儘に棄置きしに本月九日以來急に胸部に痛を生じて苦み居りしが終に十七日死亡したり狂水病と診斷せらる

◉英兵と膓窒扶斯患者

最近の統計に據れば南阿戰爭の開始以來昨年九月廿八日迄に英兵の膓窒扶斯病に罹りたるものは一万五千六百五十五人死亡者は三千六百四十二人廢兵として本國に送還せられたるもの九千百二十八人ありたりと云ふ

◉埼玉縣下の痲疹

過般來南埼玉郡粕壁附近に猖獗を極めしが此頃は浦和附近へ襲來し一家一二人位宛此の病にて打ち臥して居ると云ふ

紹介

◉東京女學館生徒募集

全館は麹町區虎の門内の高燥なる處にあり構内廣くして生徒の運動に適し教室等よく整理して中流以上の子女多く在學せり本年三月學期の終了後は生徒を募集す(本紙廣告參照)毎年の例によれば忽ち生徒滿員を告ぐるに至ると云へば有志の方は早くより申込まるべし同館は今後とも毎月本會の講演を開くを以て同校在學の生徒は婦人衛生上に關する諸大家の講演を傍聽するの益あり本會々員の紹介によれば滿員にならざる限りは特別無試驗にて就學せしむ

●をんな雜誌の發刊

をんな雜誌は大日本女學會より其第一號を發刊せらる（廣告參照）論說、學藝、修身、齊家、世務、譚叢、詞選、雜錄、時事、叢報等ありて淑女達のたしかに益友なるべし

●同志社おとづれ

右第一號は同志社看病婦學校同窓の爲めに佐伯校長の編輯せられたるものにして本會に寄送せられたり其他の新刊は藥局新報、婦女の友志美等なり

●金壹圓　牛込　林竹子

右本會の手を經て岡山孤兒院へ同氏より寄附せられたり

●交通世界

同雜誌は神田錦町の交通世界社より其一號を發刊す交通上即ち汽車汽船の事より論說、時言、訪問、雜錄、文藝、紀行、小說、案內、叢報等の數欄あり交通上の好冊子なり

大日本婦人衞生會記事

●二月例會略况

二月九日（第二土曜日）午後一時より本會の例會を麴町區三年町虎の門內東京女學館講堂に於て開きたり醫科大學婦人科專門なる醫學士木下正中君には婦人に必要なる衞生上の注意と云へる演題にて先づ月經時の攝生に付西洋に行はるゝ月經帶の二三を示し月經時の危險より延いて姙娠流產等の事に說き及ぼして終結せられ次に理學博士石川千代松君には動物の共棲に就き掛圖及實物に就きて演說せられ右終りて一同散會せしが當日役員には濱尾副會長、鳩山、高木、幹事をはじめ羽田、松村令夫人以下會員及女學館生徒を併せて二百五十餘名の聽講者ありたり

因に記す當日木下醫學士の會員に示されし月經帶は近日氏の考案を加へ調製せしむるよし價も廉なれば其利便少からさるべし何れ調製の上にて又々本誌之を紹介すべし

報告

去る一月二十九日東京帝國大學第二醫院は不幸にも

不慮の火災に罹り入院患者等數多の死者を出せしことは諸氏の熟知せらるゝ處にして實に悲慘の極みと云ふべし本會は此報に接するや直ちに人を現場に遣はし慰問を爲りしが死者負傷者の慘劇なることは勿論ながら又同所看護婦の如きもかよはき女の身のよく患者を救護してそれが爲め或は負傷し又は頭髮を燒かれ纔かに身を以て患者と共に逃れ衣類其他一切燒失せる次第にして實に憫然の至なり死者に對しては續々義捐金も集まるべきも看護婦迄には如何あるへきか寒氣の折柄目前被服に差障ふるを聞き本會は不取敢同所看護婦へ綿入服七十七枚死者遺族に對しては金五拾圓を本月一日寄贈せり

右義捐の事は會員諸氏の協議を經んと欲せしが固より迅速を要する場合にして多數の諸氏へ一々賛否を問居るひまには時期を失するの恐れあり他の事と違ひ慈善に富める會員諸氏の事なれば事後承諾を得んと決し右の如く義送することゝなしぬ但し地方會員は不便多きをもて在京會員のみに右の趣を報じて賛成を求めしが何れも異議なりしとて賛助金寄送の事を續々申し越されたり本會固より多分の寄附を會員諸氏に望むことを欲せず只義送の衣服料を補充せば足れりされば在京會員一同の賛成を得て毎人二十二錢つゝの出金を仰かんとの冀望にてありき然るに慈善に厚き會員諸氏は超高額を出金せらるゝものも多く本會の喜び禁せざる處にして深く諸氏の厚意を鳴謝する處なり

◉尙義送金は目下集金中に屬するが故に次號を以て義送諸氏の芳名及金額等を掲げ永く本會の紀念に存すべし諸姉願くは之を諒せられよ

義送目錄

一金五拾圓　東京帝國大學附屬第二醫院燒死者遺族へ

一双子綿入服七十八枚　仝第二醫院看護婦、雜仕婦、附添人へ

右寄贈致し候

明治三十四年二月一日　私立大日本婦人衛生會

因に記す會員諸氏へ報告の際衣服七十七枚とせしが其後一枚不足の趾に付跡より尙壹枚を發送せしを以て都合七十八枚となりしなり

支出算節

金貳百貳拾八圓也

内

金五拾圓　死者遺族へ　本會資金より支出の分

金百七拾八圓　在京會員諸姉へ義捐を請ひし分

小譯

金百五十六圓　看護婦、雜仕婦、附添人七十八名へ衣服購入代一枚に付金貳圓

金拾貳圓　會員へ通知はがき八百枚

金拾圓　送金及印刷費

以上

●日本橋區住吉町樋口八重子殿父藤次郎氏には屢々本會々員を誘導せられ又臺灣會員川村まさ子も本會々員誘導の事に力を盡さる共に其厚意を謝す

宇都宮本會支會の創設

醫學士淺田決君の盡力により今回宇都宮に本會の支會を創設するに至る趣きには同氏の盡力により新潟及山形支會設立し今又宇都宮支會創設成る氏の斯道に熱心なる感銘の至りに堪へざるなり

同支會創設に際し淺田氏よりの來翰

拜啓

小子事當地赴任以來支會設立を心掛居候處此頃に至り機漸く熟し設立の御承認を仰く事に相成申候早速御承認に相成候はゞ來二月三日發會致し度(中略)先は右迄得貴意度如此に御座候敬具

一月廿二日　淺田決

私立大日本婦人衛生會幹事御中

第二書翰

此度左記會員相集支會設立致度別紙規則書相添御承認候也

明治三十四年一月廿一日　瀧部いく子

外二十名連名

●本會は右書狀の着するや直ちに宇都宮支會の創立を承認し發會式當日は仁禮會長忌服中の故を以て濱尾副會長より左の祝詞を送附せり

人世衛生の緊切にして忽せにすへからざるは言を俟たず然して婦人にありて殊に注意を要すること多々にして公私衛生の爲め其關係尠少にあらざるべし我か大日本婦人衛生會は從來創立の旨趣に據り會員協同して衛生の爲め裨補せんことを期せるが頃日宇都宮に在る會員方には熱心に本會支部の設置を計畫せられ本日を以て發會式を擧行せらるゝの報に接し公私衛生の爲め洵に慶賀する所なり願くは各方ます／＼同志と協力せられ支部の隆昌を圖られん

ここに謹みて祝辭を述ふ

明治三十四年二月三日

私立大日本婦人衛生會會長代
副會長　濱尾作子

◉全支會に於ては發會式後續々入會するもの多く（本紙參照）事務所は宇都宮市西塙田町淺田氏方に置き役員は左の如く決定せりといふ

宇都宮支會々長　溝部いく子
仝　副會長　石井せい子
仝　幹事　高崎うた子
仝　幹事　中島とみ子
仝　幹事　淺田とみ子

右の外幹事一名并に評議員は追而撰定の上公報すべしといふ

新潟支會報告

◉新年會

一月十三日午前十時より新潟市西堀通り長善寺に於て新年會を開きたり當日は曇天なりしが會する者九十四名式場には總裁殿下の御眞影を奉置し會員一同拜賀式を行ひ講師高橋辰五郎氏は總裁殿下の令詞を最と鄭重に朗讀せらる一同謹聽し朗讀前後に君が代の樂を奏し式終りて會員一同へ茶菓、折詰を差出し、暫の接待あり午後には松林蝶圓の講話及び興味ある幻燈の餘興もありて發會所々に開へ一同歡を盡して散會せしは午後四時なりき

◉新潟病院外科醫長醫學士[illegible]●●●●●君本月より當支會の講師たる事を承諾せられたりといふ

山形支會報告

◉一月發會

一月は種々の障りありしまゝ發會を一月廿日第三日曜日に山形市濟生館病院の樓上に開き午後二時より左の講話を始む

一種痘に就きての注意　濟生館醫　西村幹太郎君
一運動の効用　濟生館醫　[illegible]
一異常の月經に就きて　濟生館長　川上[illegible]君

此日安村副會長を始め會するもの僅に十六名四時

三十分を以て閉會せり來會者の少數なりしは蓋し舊暦の年末に近よりしと寒氣劇烈なるに因るべし

●二月例會報告

二月十日第二日曜日午後一時三十分を以て例會を高等女學校に開く來會者約四十名道路雪解けの爲め往來に困難なるにより本月も來會者少なかりき而して左の講話あり終りて四時三十分散會せり

一小兒健育法　　濟生館醫　滿尾銈太郎君

一異常月經の中月經過多につき　　濟生館長　川上[illegible]君

●本會入會者　一月中旬以降至二月中旬

○評議員　岡田德子紹介

●神田區南甲賀町十七番地　特別會員　朝倉ゆき子

○八王子　廣瀬綾子紹介

●南多摩郡八王子町本町八番地廣瀬方　通常會員　和田好枝子

○函館　堀野惠美子紹介

●函館區大町二十九番地　通常會員　小山田よね子

○麹町　塚本靜江子紹介

●小石川區竹早町三丁目六十三番地　通常會員　東三條紋子

●芝區佐久間町二丁目八番地　通常會員　須田謙代子

●牛込區榎寺町八番地[illegible]方　通常會員　齋藤志ん子

○日本橋　林郁留子紹介

●下谷區櫻木町二番地　通常會員　坂上よね子

○日本橋　樋口八重子紹介

●日本橋區蠣殻町三丁目一番地樋口方　通常會員　根岸菊子

○下谷　小山はな子紹介

●下谷區練塀小學校內　通常會員　和田みね子

●仝上　通常會員　中村い代子

○對馬　清水住江子紹介

●對馬國嚴原宮谷町百五番地　通常會員　下田けい子

仝　嚴原仝町九十四番地　通常會員　渡邊千賀子

○本郷　榊梅子紹介

●東京府巣鴨病院內　通常會員　田賀うむ子

●同所　通常會員　永松あい子

○牛込　杉山わか子紹介

●[illegible]國安八郡[illegible]村　通常會員　杉山千代子

○永樂病院　中尾はつ子紹介

●麹町永樂病院內　通常會員　今淵榮子

●仝所　通常會員　七尾なを子

●仝所　通常會員　倉澤頼子

●仝所　通常會員　片岡房子

○幹事　松平芳子紹介

●福井縣坂井郡雲濱村字四津二十名和方　通常會員　鄭濱琴子

○會員外本鄉　中島とく子紹介

●信濃國下高井郡中野町字新町　通常會員　黒岩ぬい子

○事務所申込

●神田區小柳町　通常會員　小高つや子

●赤坂區檜坂町五番地　特別會員　川添香代子

●本郷區駒込動坂町二十四番地　通常會員　須田壽美子

●日本橋區小網町四丁目五番地　特別會員　大森ちやう子

●北多摩郡拜島村上宿産婆廣瀨方　通常會員　島　幸子

●長野縣小縣郡上田町八百五十番地山崎方　贊成會員　飯島俊君

○甲府贊成員　武藏秀直君紹介

●甲府市春日町百四十四番戸　通常會員　渡邊文子

●甲府市新背沼　贊成會員　石井武志君

●甲府市柳町四丁目　通常會員　淺香翁子

●甲府市柳町三丁目直江次郞方　通常會員　直江はな子

○日本橋　樋口八重子紹介

●神田區佐久間町三丁目三十七番地　通常會員　關口竹子

●神田區裏神保町八番地　通常會員　堀口ひな子

●下谷區御徒町二丁目十六番地　通常會員　小林澤子

●下谷區御徒町三丁目四十七番地　通常會員　平井翠子

●淺草區　通常會員　横山美代子

○神戸　前川照子紹介

●神戸縣立病院內　通常會員　中村もと子

○贊成員深澤清賢君紹介

●山梨縣北巨摩郡津金村百十九番戸　贊成員　津金胤利君

●甲府市白木町　特別會員　三神照子

●山梨縣北巨摩郡若神子村湯澤古城館　通常會員　成島たま子

○甲府　増田ちほ子紹介

●甲府市富士川町十五番戸　通常會員　澤田いね子

●甲府市紅梅町　通常會員　小宮山たね子

○山梨　窪田子貞君紹介

●甲府市新紺屋町　通常會員　千葉わき子

●山梨縣西山梨郡千塚村大字千塚　通常會員　窪田とり子

●新潟支會入會

○評議員　池原きん子紹介

●新潟市上旭町　特別會員　瀧川たま子

●仝學校町二番町　通常會員　內山けう子

○評議員　都築すが子紹介

●新潟市上旭町　通常會員　篠原きよ子

○會員　小柴きく子紹介

●新潟市學校町二番町　特別會員　和田くに子

○幹事　河上ふさ子紹介

●新潟市下旭町　通常會員　金坂ひで子

●仝　白山前一町目　通常會員　三宅ふで子

○會員　梅木しづ子紹介

●新潟市東仲通一番町　通常會員　小布施すみ子
●仝　上旭町　通常會員　清水わか子

○講師　高橋辰五郎君紹介

●新潟市大畑通　通常會員　前川事 長谷川うた子

◉宇都宮支會入會

○役員　淺田とみ子紹介

●宇都宮市西塙田町　通常會員　溝部いく子
●仝　通常會員　樺山ふく子
●仝所　通常會員　矢板はま子
●仝所　通常會員　五十嵐けい子
●仝所　通常會員　天野柳子
●仝所　通常會員　水本かね子
●仝所　通常會員　高崎うた子
●仝所　通常會員　稲葉みつ子
●仝市東塙田町　通常會員　久保ため子
●仝市松ヶ峯三番地　通常會員　中山きく子
●仝市小幡町　通常會員　石井せい子
●仝市中河原町　通常會員　笠原小常子
●仝市江野町　通常會員　中里安子
●仝市大寛町　通常會員　大久保つる子
●仝市二條町　通常會員　長野志ゆん子

●日本赤十字社栃木支部看護婦養成所　通常會員　中島とみ子
●宇都宮病院　通常會員　水野つね子
●宇都宮市江野町　通常會員　神谷志か子

○役員　中島とみ子紹介

●宇都宮市中河原町看護婦養成所寄宿舍　通常會員　平野すわ子
●仝所　通常會員　齋藤あさ子
●仝所　通常會員　廣瀬ゆう子
●仝所　通常會員　上野たつ子
●仝所　通常會員　糸井のぶ子
●仝所　通常會員　村松たつ子
●仝所　通常會員　松枝きよ子

○會員　五十嵐けい子紹介

●宇都宮市傳馬町　通常會員　前島なを子
●仝市塙田町　通常會員　原ちせ子
●仝市新石町　通常會員　佐久間みの子
●仝市三條町　通常會員　石田つね子
●仝市傳馬町　通常會員　行森保司

○仝支會へ申込

●仝市高等女學校　通常會員　門脇せつ子
●仝所　通常會員　太田まつ子
●仝所　通常會員　安藤かね子
●仝市馬場町四十四番地　通常會員　戸田とく子

○役員　高崎うた子紹介

●仝市二條町　通常會員　鈴木よし子
●仝市大寶町　通常會員　田中幸子
○會員　神谷しか子紹介
●栃木縣芳賀郡祖母ヶ井村　通常會員　町田まち子
○役員　石井せい子紹介
●仝市三條町二十三番地　通常會員　千葉あや子

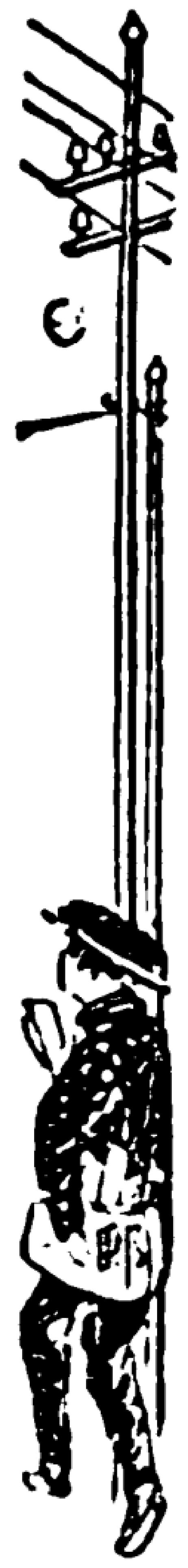
◎山形支會入會

●山形市旅籠町字鴈島　特別會員　牧山そか子
●山形市香澄町字鍄二一五　通常會員　吉川たけ子

弔詞

◎本會贊成員宮下俊吉君北澤正誠君の兩氏は此程永逝せられたり兩氏夫人は何れも本會役員として盡力淺からさりき葬儀の際は本會事務所より會葬せり本會は玆に

謹みて哀悼の意を表す



轉居

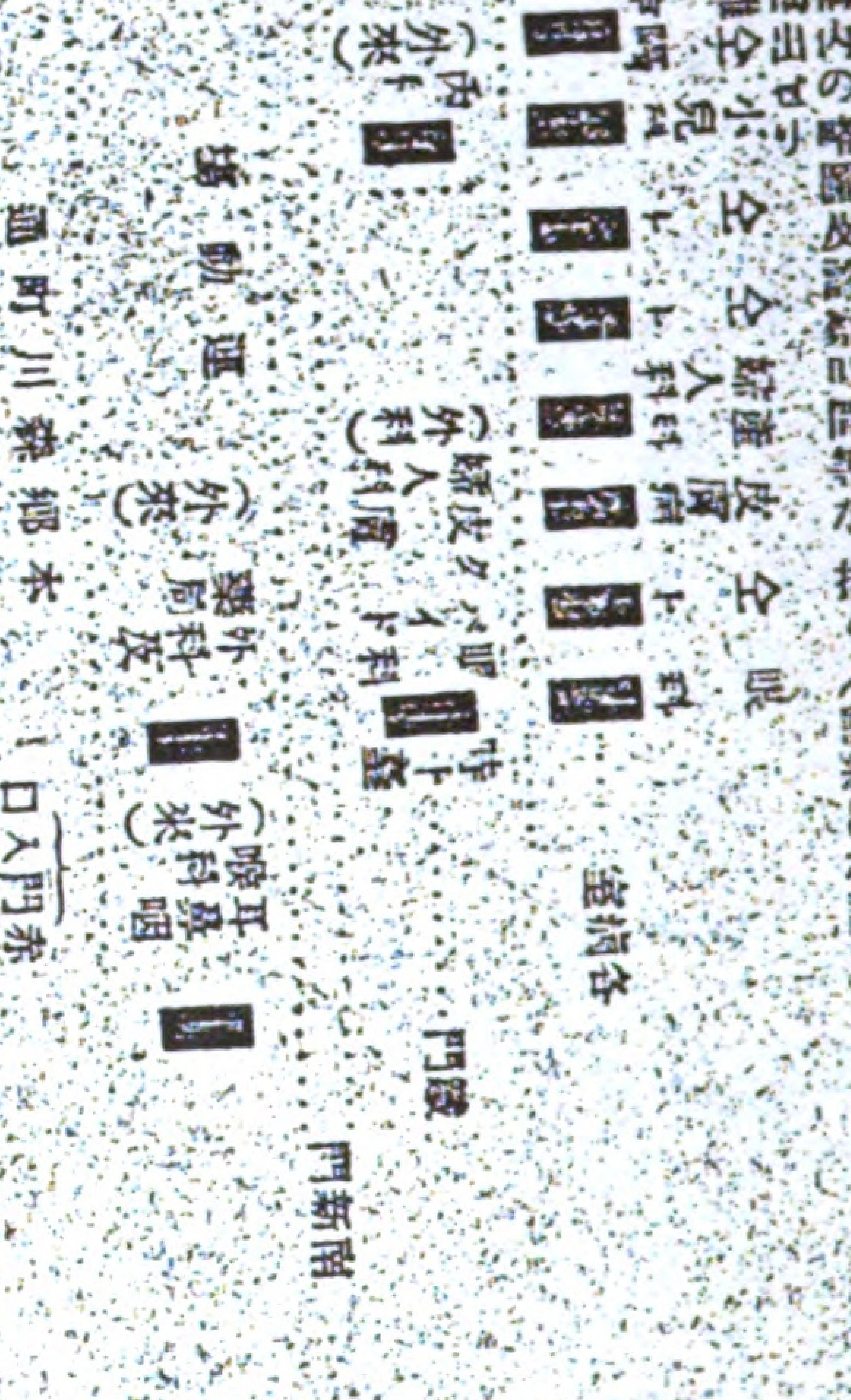
會員諸氏御轉居の際は乍御手數事務所宛必ず御一報相成度候

●山形縣酒田高等女學校へ　和田あい子
●北海道札幌區南二條西三丁目十六番地高橋方へ　山田いさ子

●本郷區駒込西片町十番地ろノ廿四號へ　竹村貞子
●宇都宮市宇都宮病院內へ　佐々木としゑ子
●甲府市愛宕町百一番戸へ　水谷とみ子
●牛込區若松町五十九番地へ　川地遊龜子
●麻布區市兵衛町二丁目十三番地へ　高崎正風君
●神田區今川小路三丁目八番地へ　矢野德代子
●芝區愛宕町三丁目三番地渡邊方へ　奥田糸子
●本郷區東片町十四番地へ　關すが子
●牛込區市ヶ谷谷町百二十番地へ　青戸作子
●麹町區下六番町十七番地へ　松澤乙加子
●牛込區袋町八番地へ　飯田幸子
●神戸市仲山手通四丁目二十三番屋敷へ　大村やす子
●深川區古石場町六番地へ　堀越みつ子
●淺草區田町一丁目八番地へ　栗田收　鬼魚ふく子
●盛京省北城南門街外丁第三號九室へ　佐藤喜枝子
●仝　丁第三號十室へ　平田まさ子
●大阪市東區南本町三丁目九十二番屋敷正田方へ　林くま子
●牛込區市ヶ谷仲ノ町五十八番地へ　厚東遊喜子
●麻布區櫻田町九番地へ　東三條綏子
●水戸市上市馬口勞町五丁目八十二番地へ　小倉すゑ子
●千駄ヶ谷村瀨津方へ　北澤信子
●本所區元町二十二番地田中喜作方へ　細野と代子
●小石川區小日向臺町一丁目二十番地へ　長谷川仲子
●長崎市出來大工町八番戸郵便局長官舍へ　棟居みち子

東京帝國大學醫科大學附屬醫院案内

東京醫科大學附屬醫院は本郷元富士町にあり會員の便を圖り左に構内の略圖及診察日割等を掲ぐ（詳細は本誌第百三十四號以下に掲出せり）



第一醫院外來患者診察日割

内科（新來）初めて診察を受けに行くもの
三浦教授 水金 午前九時ヨリ
入澤助教授 火土 仝
橋本助教授 月木 五
再來（二度目以上診察を受けに往くもの）
助手 火木土仝

外科（新來）
ドクトル スクリバ 水金 午前十時より三十人
近藤教授 火木土 午前九時より二十五人
再來
助手 月水金 午前九時より

眼科（新來）
河本教授 月火水木金土 午前八時より
再來
河本教授 月火水木金土
助手 仝上

産科婦人科（新來）
木下教授 火木土 午前九時より
再來
木下教授 火木土 仝上
助手

小兒科（新來）
弘田教授 月水金 午前十時より
再來
弘田教授 火木金 午前九時より
助手

皮膚病科（新來）
土肥教授 月水金 午前九時より
再來
土肥教授 月水金 仝上
助手

耳鼻咽喉科（新來）
岡田教授 月水金 午前九時より
再來
岡田教授 火木土 仝上
助手

脚氣病科
新來再來とも 火木金 仝上
助手

但大祭祝日及急病患者は此限にあらず

病室來訪時間（午後一時より仝五時迄）

外科及事務用 電話（本局四百四十六番）
産科婦人科小兒科 電話（本局四百四十四番）

第二醫院診察日割

第二醫院燒失後は第一醫院外科の一部に於て診療する元の如し

内科（新來）
青山教授 火木
入澤助教授 月
橋本助教授 水土
助手 金
新來
佐藤教授 火木土
助手 月水金

眼科（新來）
中野助教授 火木土

入院料

一等 一日金參圓
二等 一日金貮圓
三等 一日金壹圓

但特別に附添看護婦を備使するものは別に其備使料を納めしむ

尚私費患者入院心得は本誌第百三十四號官費入院患者心得等は本誌第百三十五號を一覧せらるべし

産科往診

東京市内ニ居住スル姙婦ニシテ出産時本院ニ來リ診察ヲ受ケ難キ場合ニ於テ往診ヲ請フトキハ産科専門ノ醫員ヲ派シテ診療セシム

但診察料及旅費其他ノ費用ヲ要セズ

九ケ月以上ノ姙婦ニシテ入院ヲ請フモノハ診察ノ上官費又ハ私費ヲ以テ入院ヲ許ス

明治三十三年十一月

東京本郷區元富士町

東京帝國大學醫科大學附屬醫院

（電話本局四百四十四番）

大學醫院[illegible]患者儀死の訃音に接し哀悼の意を表す

明治卅四年一月

元大學醫局員　相州藤澤大坂町

寺田[illegible]一郎

通學生五十名を募集す

年齢滿十七歳以上身體健康、品行方正、高等小學卒業以上の學力あるものは、來三月限志願書を差出すべし

但し授業は、本年四月十一日より始め來年三月廿日に終る

東京日本橋區濱町三丁目七番地

産科婦人科楠田病院

高等産婆講習所

第十三回産科婦人科講習

來四月廿一日始業　五月二十一日終業

開業免狀所有の醫士十名限

東京日本橋區濱町三丁目七番地

楠田病院教室

私立大日本婦人衛生會宇都宮支會規則

第壹條 本講會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス

第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク

會長副會長ハ公選シ評議員幹事ハ會長之ヲ選任ス

各役員ノ任期ハ二ヶ年トス

第參條 毎月壹回(第三日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス

第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ

本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスル者ハ其旨事務所ニ届出ツベシ

第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ

會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分ヲ前納シ入會ノ其月ヨリ六月又ハ十一月迄ノ分ヲ納ムベシ

第六條 本支會ハ別ニ支會役員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス

第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ

第八條 服裝ハ新舊質素ナルヲ要ス 上着及袴ハ綿布ヲ用ユベシ

第九條 本支會ノ規則ニ規定ナキ事項ハ總テ本會ノ規則ヲ適用ス

明治三十四年二月三日創立

私立大日本婦人衛生會宇都宮支會

事務所宇都宮市四[illegible]町池田方

醫學士竹中成憲先生著

● 通俗肺病豫防養生法 正價四十錢 郵稅四錢

右は肺病の原因、徴候、療法等を極めて通俗的に述べたる者にして其主眼とする所は攝生法を明にし此恐るべき疾病を未發に防ぎ發したるものは之を治することを詳論せるものなり

醫學士竹中成憲先生著

● 最新學說 日本小內科學 本綴美本 一千餘頁 正價貳圓 郵稅十六錢

本書は本邦に固有なる若くは本邦に適切なる事項を集め簡約に編述せられたるものにして附錄の速診法、藥室備付品表、開業に際し必要器具一覽表、開業費豫算、日本刑法等其便益尠からざるものなり

醫學士竹中成憲先生著

● 新藥効用品別 袖珍臨床 正價貳拾錢 郵稅二錢

東京市本郷春木町三丁目二十一番地

發兌元 吐鳳堂書店

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條　當支會の會員は左の六種とす

終身會員　一時限り出金　金貳拾圓

特別會員　毎月　金參拾錢

通常會員　仝　金貳拾錢

支會員　甲　毎月　金拾錢

乙　仝　金五錢

第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す

第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす

第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く

會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す

各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし

第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す

第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし

會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし

第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

新潟支會

事務所新潟市旭町一番町十番戸
川上フサ子方

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す

第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く

會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す

第三條　役員の任期は一ヶ年とす

本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす

第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし

本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし

第五條　本會々費は會計幹事に納むべし

但し六ヶ月　又は一ヶ年分

新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし

第六條　服裝は精誠質素なるを要す

上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

私立大日本婦人衛生會

山形支會

事務所山形市檜物町川上方

(明治三十六年四月[illegible]日第三種郵便物認可)(明治三十八年[illegible]內務省許可)

●大日本婦人衞生會規則摘要

一 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究せしめ衞生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり

一 會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

一 入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員證を交付す但郵券三錢を要す

一 會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

終身會員は一時に金拾圓以上●特別會員一ヶ月金貳拾錢以上●通常會員一ヶ月金拾錢を納むるものとす●男子贊成員亦同じ

一 男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員協議に依り無會費とすることあるべし

一 會員は本會に於て毎月發行する雜誌を無料にて受ることを得

一 退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より又通知すべし但既納の會費は返戻せず

一 集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす

但毎會學識經驗ある者に衞生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

一 會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむるを得(勸めて衣服は質素たるべきこと)

一 講義演說等は男子の傍聽を禁ず但贊成員若くは會員縁故ある男子は此限にあらずと雖も贊成員の外は本會の都合に由り臨時謝絕することあるべし

●支會

一 地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一 本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一 本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尚詳細は本會事務所へ承合すべし

●注意

一 會費は東京府下に限り毎月會費領收人を差出すべし地方會員入會の際は前金を以て會費三ヶ月分又は六ヶ月一ヶ年分を納付せらるべし

一 會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局(東京牛込郵便局)宛振出あるべし又通運便何にても差支なし

一 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に郵券三錢を添へらるべし

但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割增とす

一 轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料	
一行	十錢
一頁	參圓
總て前金	

本誌定價一部二十錢　每月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衞生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷者　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　戶上義章

印刷所　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工塲